

淑徳大学 地域連携 センター

年報 Vol.4

2020年

CONTENTS

巻頭言

コロナ危機の中で問われること

…………… 淑徳大学地域連携センター長 矢尾板俊平

論文

I. 論文

CHIBA DREAM Campus 2019の教育実践から

…………… 岡村宏懇

研究ノート

II. 研究ノート

キリン「iMUSE」展示体験コーナーを通じた企業
連携と地域参加

—正課授業と大学祭を連携させた学年横断プロジェクト—

…………… 杉原麻美

活動報告

III. 活動報告

2019年度大学地域連携センター 事業報告

I. 大学地域連携センターの取り組み

II. 各キャンパスでの取り組み

III. 受託事業

目次

巻頭言

コロナ危機の中で問われること	淑徳大学地域連携センター長 矢尾板俊平	1
----------------------	---------------------	---

I. 論文

CHIBA DREAM Campus 2019の教育実践から	岡村 宏懇	3
--------------------------------------	-------	---

II. 研究ノート

キリン「iMUSE」展示体験コーナーを通じた企業連携と地域参加 —正課授業と大学祭を連携させた学年横断プロジェクト—	杉原 麻美	8
---	-------	---

III. 活動報告

2019年度大学地域連携センター 事業報告		14
I. 大学地域連携センターの取り組み		
II. 各キャンパスでの取り組み		
III. 受託事業		

巻頭言

コロナ危機の中で問われること

淑徳大学地域連携センター長 矢尾板 俊 平

未来の教科書には、2020年という年は、世界中が新型コロナウイルス感染症のパンデミックに直面したことが記載されることと思います。このコロナ禍において、私たちが問われているのは、ソーシャルディスタンスなど、人と人の「物理的なつながり」が困難になる状況の中で、どのように他者のことを思い、他者とともに生き、人と人の「心のつながり」を深めていくのか、ということのように思います。その意味で、「利他共生」、「感恩奉仕」の言葉で表される本学の建学の精神に立ち戻り、私たち自身の生活、そして教育研究活動、社会連携・地域連携活動に取り組んでいくことが求められています。

これまでもICTを活用した教育改善の取り組みは進められてきましたし、その議論が行われてきました。このコロナ禍の影響が無くても、数年後には、IoT技術やAI、ロボット等の活用により、大学の教室の憧憬は大きく様変わりしていた可能性が高いでしょう。新型コロナウイルス感染症の流行拡大は、こうした高等教育におけるICTの利活用、さらには高等教育のDX（デジタルトランスフォーメーション）は、急激に押し進めることになりました。突然の環境の変化の中で、試行錯誤を続けながらも、学生の皆さんの学びを止めないために、授業を続けていくために、教職員の皆さんが一体となって創意工夫された取り組みは、大学にとって大きな財産であると感じます。また、このような状況の中でも、自治体や産業界のパートナーの皆さんにもご負担をかけながらも、教育研究活動を継続することができています。全ての教職員の皆様、自治体や産業界の皆様に、心より感謝を申し上げますとともに、コロナ禍が続く中で、引き続きのご支援をお願い申し上げたく存じます。

さて、戦前に衆議院議員を務めた中野正剛は、1943年の元旦に、「朝日新聞」に寄稿した論考『戦時宰相論』に、次のような趣旨のことを述べています。

『非常時の宰相には、強さが必要であるが、個人の強さには限界がある。宰相として強くあるためには、国民の愛国的情熱と同化して、時に、これを鼓舞し、時にこれに激励されることが必要である』

中野正剛は、非常時の優れた日本の宰相として、桂太郎を挙げています。桂太郎は、貫禄なき首相ではあったが、適材適所に人材を配置し、日露戦争という危機を乗り越えたからであるそうです。桂太郎は、言わずもがな、安倍晋三前首相が憲政史上最長の在任期間を更新するまで、最も在任期間が長かった首相です。このコロナ禍の中で、安倍晋三政権から菅義偉政権へと変わりました。このコロナ禍の中で、リーダーたちは、人々の気持ちや想いに寄り添い、それを鼓舞し、また人々から激励されながら、危機を乗り越えていく理念を持ち続けることが必要なのではないかと思います。中野正剛は、『戦時宰相論』を次のように締めくくります。「難局日本の宰相は絶対に強くなければならぬ。強からんが為には、誠忠に謹慎に廉潔に、而して気宇廣大でなければならぬ。」

経営の要諦は「変化対応」です。常に変わり続ける環境、状況の中で、いかにその変化に対応していくべきか。そのことを、このコロナ禍の中で、改めて問われているように思います。

2020年12月

CHIBA DREAM Campus 2019の教育実践から¹

岡村 宏 懇²

要 約

CHIBA DREAM Campus 2019は思考力と表現力を修得するための新たなアクティブラーニングモデルの開発を目的として行われた教育実践である。本稿はCHIBA DREAM Campus 2019を、事業目的であるアクティブラーニングの領野においてその有効性について検討し、お笑いが、自ら主体的に学ぶ力の育成に有効な教育手法となりえる可能性について言及した。

キーワード

アクティブラーニング CHIBA DREAM Campus2019 21世紀型能力 お笑い 教育方法

1. はじめに

2019年11月10日（日）、千葉県千葉市のよしもと幕張イオンモール劇場で「CHIBA DREAM Campus 2019～お笑い³は人生を豊かにする！学生が創る“笑学”」（以下、CDC2019と略述）が開催された⁴。これは淑徳大学コミュニティ政策学部の矢尾板俊平教授による2019年度淑徳大学教育改革推進事業⁵「思考力と表現力を修得するための新たなアクティブラーニング手法の開発」の教育発表会として行われたもので、IoT（Internet of Thinking）やAI技術等の発展に伴い、社会がSociety5.0⁶へと進展していく中、次代に求められる21世紀型能力⁷育成のための新たなアクティブラーニング・プロトモデルとして試行された。具体的には、副題の“笑学”に著されているように「笑い×学び」に着想したユニークな教育実践として、学生がプロの芸人⁸と共同でお笑いステージを創った。

矢尾板は2012年からDREAM CHIBA PROJECT⁹と銘打ち、アクティブラーニングの多様な試行実践を行っており、お笑いライブについてはCDC2019が4回目の取り組みとなる。本稿は、CDC2019のプログラムの内、トークコーナーと学生大喜利（以下、お笑いトークライブと総称）を考察対象に、お笑いトークライブの思考力と表現力を修得するためのアクティブラーニングとしての有効性について検証する。

2. 研究の背景

矢尾板による2019年度淑徳大学教育改革推進事業の特色は、正解の無い問題に取り組む力を修得するための新たなアクティブラーニングの手法として、これまでのDREAM CHIBA PROJECTでの様々な試行実績の上に、芸術（Art）を取り入れようとした点である。矢尾板は公開FD研究会¹⁰で次のように述べている。「今回のプロジェクトに関しての出発点は、Visual Thinking Strategyという方向に関心を持ったことでした。（中略）VTSの取り組みを何かアクティブラーニングという方法に取り込めないかということで、このプロジェクトをスタートさせていただいたわけです」そして、思考力と表現力をキーワードに、思考力に関しては美術館での対話による鑑賞¹¹を試み、表現力についてはCDC2019でお笑いステージをつくった。即ち、矢尾板による2019年度淑徳大学教育改革推進事業は、ArtとPerforming Artを導入したプロジェクトということができる。

3. 研究の内容と方法

CDC2019のお笑いを活かしたアクティブラーニングを、本稿では以降、笑学アクティブラーニングと呼称する。

研究のプロセスを以下に示す。

まず、お笑いトークライブが正解の無い問題に取り組む力を修得する学びの場になり得たかについて考察する。具体的には、美術教育において近年注目を集める対話による鑑賞法¹²を参考に、学びの場としての類似性から笑学アクティブラーニングを検証する。教育効果については、参加学生の振り返りアンケートから検討する。

まず、CDC2019の教育目的と教育手法について確認しておこう。

3-1 正解のない問題に取り組む力

2020年に新たに新学習指導要領が策定され思考力・判断力・表現力の育成がより一層重要視される内容となった。笑学アクティブラーニングの教育目的である「正解のない問題に取り組む力」は、来るべき未来社会で期待される「自ら学ぶ力¹³」の一つで、従来の知識詰め込み型教育で求められてきた「正解を見つける力」ではなく、課題そのものを見つけ出し自分で「答えをつくる力」の育成をいう。新しい教育目標を達成するためには新しい教育方法が選択あるいは創造されねばならない。「自ら学ぶ力」の育成には、日進月歩で書き変えられていく「地図」を持つための学びではなく、自分なりのコンパス（羅針盤）を持つための新しい学び方が求められる。本論考では、正解のない問題に取り組む力を、山中（2018）のいう学習者が人や現場、事物に関りを持ち、何らかの役割を体験することで『『なすこと』によって（中略）自発的、内面的に学ぶ対象に対する理解を深め、問題の解決に役立てようとする力』と設定した。

3-2 アクティブラーニングとは

近年、学習者が主体的に学ぶアクティブラーニングが注目を集めているが、アクティブラーニングとは、中央教育審議会が用語集の中で示した定義によれば「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称¹⁴」のことである。また「能動的」の中身について言及された定義には、溝上（2014）の「一方的な知識伝達型講義を聴くという（受動的）学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う」がある。この「認知プロセスの外化」についての指摘は重

要である。河野（2016）が言うようにアクティブラーニングはあくまで教育方法であって、期待される学習成果を実現するための手段として導き出されるものである。アクティブラーニングの導入によってどのような肯定的学習成果が得られたかという検証がなおざりにされ、表面上活発に見える学習光景だけを見て満足する陥穽に落ちてはならない。表面上は活発な議論に見えて実は雑談でしかない学びの場は多い。学習光景ではなく、学習者の主体的かつ探求的な学びが言語化される「認知プロセスの外化」が促されたかどうかでアクティブラーニングの効能は測られなければならない。

3-3 対話による美術鑑賞とは

アクティブラーニングの共同学習の手法はワークショップとも共通項が多い。中野（2004）はワークショップを「一方的な知識の伝達スタイルではなく、参加者が自ら参加・体験し、グループの相互作用の中で何かを学び合ったり創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイル」と定義し、①参加②体験③相互作用の3つの特徴を挙げる。

美術教育における対話による鑑賞法について、上野（2012）は、その学びのスタイルを「芸術作品の鑑賞の際に、進行役と複数の鑑賞者が対話を通して作品に対する意見を交換しながら鑑賞することで、鑑賞作品への興味や理解を深めていくような鑑賞法」と定義する。

対話による美術鑑賞を上記①②③の特徴から説明すれば、「共同鑑賞の場に参加して作品を観る体験を経て、対話を通じて互いの感想を述べ合い、答えを共有し合う相互作用によって、協調的に意味や価値を生成していくこと。」となる。ここで②の体験をさらに詳しく見れば「観る個人体験」と「感想を述べ合う共同体験」に分けることができる。梅田ら（2000）は、観察を「目の体験」、対話による感想交換を「ことばの体験」と呼び「われわれは、しばしば他人の言葉で自分の認識をつくる」と述べる。感想を述べ合ったり答えを競合することは、課題に対して能動的な取り組みが行われた証左であり、参加者の「認知プロセスの外化」を表している。本論考では中野（2004）の分類に梅田ら（2000）の考察を取り入れ、対話による美術鑑賞法をワークショップの一種と位置付け、その特徴を①参加②目の体験③ことばの体験④相互作用に⑤ライ

ブ性を付け加え5項目と設定した。

鑑賞者は「観る」「語る」に加え、その「場」に自身の身体をどれほど能動的に関わらせ得たかによって「学び」および「気づき」の深さが違ってくる¹⁵。他者への共感的な関係の中で問題が共有されてこそその対話による美術鑑賞である。

3-4 意味生成の場としてのギャラリートーク

解説型美術教育は、作品を前にして有識者から「解説」を受け知識や教養を身に付ける教育法である。「解説」とは他者の目を通した作品の見方であり、耳から教えられる学びの方法である。対話による美術鑑賞法は、学習者が自分の目で「見る」ことから始まる目で学ぶ方法である。この「教えられる」と「学ぶ」の教育内容の違いは大きい。作品を観た感想を述べ合い交感することは、自分のイメージを広げ、深める。見方が変われば意味も変わる。対話による美術鑑賞の現場では、自分の「内」だけでなく「外」でも自分のイメージや考えが研磨されていく。その意味で、作品を前にしたギャラリートークは、オープンな意味生成の場といえる。対話による美術鑑賞の目的は、作品に対する自分の見方や感じ方を、対話を通して広げたり深めたりしながら意味を生成していくことである¹⁶。「芸術とは、作品の中に、あるいはその背後に自己完結的に存在するのではなく、(中略)『みる』ことの厚みの中に共同幻想として成立する。¹⁷」は大変示唆に富む言葉である。知識や答えは、予めどこかに用意されているものではなく、自分で関わりを持ち、対話をする中で創っていかなければならない。そしてそれは、先述した正解のない問題に取り組む力によってしか獲得できないものである。

4. 笑学アクティブラーニング

新しい教育目標には、それを達成する新しい教育方法が開発されなければならない。笑学アクティブラーニングの有為性は、「自ら成すことによって問題に関わり、解決しようとする力」の修得に有効であったかどうかで測られなければならない。アクティブラーニングの方法には様々な形態があるが、お笑いトークライブは美術教育における対話による鑑賞法との類似点が多い。

4-1 対話による美術教育法との類似点

大喜利はお題に対するウィットに富んだ答えをその場で競い合う発想力ゲームである。対話による美術鑑賞におけるギャラリートークもお笑いトークライブも、美術作品がお題に変わるだけで、共に参加者の協働によるオープンな意味生成の場であることは同じである。笑学アクティブラーニングは、3-3でみた上野(2012)の定義を援用すれば、「お題について、MC芸人と参加者が対話によってトークを回しながら、それぞれの意見や考えを発表し合うことで(トークバトル)、お題への解釈や理解を深めていくようなお笑いの方法」と定義できる。笑学アクティブラーニングは、共同学習の要件①参加②目の体験③ことばの体験④相互作用⑤ライブ性を満たしており、対話による美術鑑賞法との類似点から、改めて、教育方法としてのアクティブラーニングであることが追認できる。

4-2 効果

CDC2019参加学生の振り返りアンケートで、以下の回答を得た。

- 「トークコーナーに出て、笑いを取ることの大変さを実感しました。オチをつけて話をわかりやすく伝える力が大切だと学びました。」(①)
- 「その場でテーマに合わせたネタを考えるのが大変だった。」(①②⑤)
- 「トークやツッコミ・ボケで面白さを出すためには、ただやるだけではなく、誰とも被らない個人的な表現力やタイミングがとても大事だと感じた。」(③④⑤)
- 「その場の空気を讀んだかぶせボケが決まってよかった。トライは大事。」(①⑤)
- 「自分はボケではないんだと知れたことが大きな収穫でした。」(④)

(下線部、番号は筆者)

※①参加 ②目の体験 ③ことばの体験
④相互作用 ⑤ライブ性

回答内容を翻案すれば、トークライブに出て(①参加)、その場で与えられたテーマについて即興で考え(②目による体験)、ただ考えるだけでなく誰とも被らない個人的な表現力やタイミングを他者との交感の中で悟って(④相互作用)、その場の空気を讀みつつ(⑤ライブ性)発表し(③ことばによる体験)、それに

よって、例えば自分が改めてボケではない気づきが得られるなど、参加者が笑学アクティブラーニングによって自己理解に至る深い省察が促されたことが分かる。

参加者はお笑いトークライブに主体的に関わり、正解の無いテーマに取り組んだ。学習効果についてはアンケート回答から、ある程度の有効性が認められた。笑学アクティブラーニングによってCDC2019の事業目的である思考力と表現力を修得するための新たなアクティブラーニングモデルの開発は達成されたといえる。

5. おわりに —結びにかえて—

CDC2019で試行された笑学アクティブラーニングは教育手法である。笑学アクティブラーニングは事前準備ができないオープンライブなので、参加者はその場でお題に関わり、答えを導き出すことが求められた。笑学アクティブラーニングは、まさに「正解のない問題に取り組む力」の育成に有効な学びの場であると言えるだろう。

最後に、CDC2019の地域連携の側面にふれておきたい。

CDC2019は淑徳大学と吉本興業の産学共同のコラボ事業である。学生は、本番当日、地元千葉市の「よしもと幕張イオンモール劇場」で吉本芸人「やさしいズ」との共演を体験したが、企画の準備段階から、プロの構成作家の善積知樹氏によるコント台本指導や劇場付きの大森崇行氏による会場準備などの協力を得た。

産学共同では、学生が立場や年齢を越えた様々な経験を持つ人々と協働することで、更に高度な学修が期待されるだけでなく、その共同成果の地域への還元が求められる。

CDC2019は「新たな教育手法」および地域の特性を活かした「学びの場」を創出したが、今後は学生と芸人がつくる地域イベントとして、この「お笑いのイベント」が興行や地域活性化の面でどのように成果を還元していけるかが課題となろう。

注

1 本稿の執筆にあたり、矢尾板俊平教授（淑徳大学学長特

別補佐、地域連携センター運営委員長、コミュニティ政策学部教授）及び、2019年度淑徳大学教育改革推進事業「思考力と表現力を修得するための新たなアクティブラーニング手法の開発」に携わられた関係者の皆様には、多大なご指導ご教示をいただきました。心より感謝申し上げます。

- 淑徳大学人文学部表現学科准教授。大蔵流狂言師。
- 「お笑い」はネタやトークで笑わせる“娯楽”。「笑い」は幸せ、幸福感、喜びなどが笑顔になって表れる“感情”。Wマコト『笑いの力』経法ビジネス新書、2016,P.26
- 当日のプログラムは①キャンパスライフ・トークコーナー②お笑いコント③学生大喜利。今回は淑徳大学千葉キャンパス・コミュニティ政策学部の他、東京キャンパス・人文学部表現学科、千葉明德短期大学からも学生の参加を得た。
- 大学教育改革を推進するため、学長のリーダーシップの下、優れた教育改革事業を対象に助成等の交付を行う制度。平成27年度創設。
- Society1.0、農耕社会(Society2.0)、工業社会(Society3.0)、情報社会(Society4.0)につづく新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱された。内閣府「科学技術基本計画」(第5期)
(<https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/5honbun.pdf>)
- 国立教育政策研究所が提案した、思考力を中核としてそれを支える思考力と使い方を方向づける実践力の三層構造を成す概念。
- やさしいズ(吉本興業)。佐伯元輝とタイによるユニット。2011年4月結成。「キングオブコント」準決勝進出(2014～2017) (<https://profile.yoshimoto.co.jp/>) 6月24日閲覧
- DREAM CHIBA PROJECTとは淑徳大学コミュニティ政策学部矢尾板教授によるアクティブラーニングの試行実践活動で、2012年度から2020年度まで6回開催されている。お笑いの教育実践としては2014年度以降4回の開催を数える。

2012年	DREAM CHIBA PROJECT 2012	京葉銀行文化プラザ
2013年	DREAM CHIBA PROJECT 2013	幕張海浜公園
2014年	CHIBA MAKUHARI お笑い AUTUMNLIVE 2014 ～夢の舞台が、On Stage NOW!	よしもと幕張イオンモール劇場
2015年	CHIBA DREAM STORY ～DREAM CAMPUS in Chiba	よしもと幕張イオンモール劇場
2016年	DREAM CAMPUS in Chiba ～今年もお世話になりました。 地域みんなで、笑って、歌って 大忘年会～	よしもと幕張イオンモール劇場
2019年	CHIBA DREAM Campus 2019 ～お笑いは人生を豊かにする！ 学生が創る“笑学”～	よしもと幕張イオンモール劇場

- (2019年度淑徳大学教育研究推進事業 公開FD研究会での矢尾板教授の資料より抜粋)
- 10 「STEAM教育、デザイン思考、アート思考を養成する教育プログラム公開FD研究会—社会から求められる人材育成のためのアクティブラーニング手法—」(淑徳大学千葉キャンパス、東京キャンパス、オンライン同時開催) 2020.3.6
 - 11 千葉県美術館 目[me]「非常にはっきりとわからない」2019.11.2～12.28開期
 - 12 美術教育における対話型鑑賞について、大和ら(2020)は「対話型鑑賞」が、ファシリテートの問いの数を制限するなどといった誤解を招いている現状に鑑み「対話による鑑賞」の語を用いるが、本稿もこれに倣った。
 - 13 来るべき未来社会で期待される「自ら学ぶ力」としては①主体的に考える力②問いを見出す力③正解の無い問いに挑む力④対話を通して学ぶ力などが有る。https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/_icsFiles/afieldfile/2017/09/28/1396716_1.pdf
 - 14 文部科学省(2012)「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ(答申)」(https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/04/02/1319185_1.pdf 2020.8.29 閲覧)
 - 15 お笑いトークライブが盛り上がるためには参加者の積極的な発言、即ち、笑いの「場」への参加、貢献という彼らの能動的な身体が必要である。それはトーク参加者それぞれの自発性に依るだけでなく、ファシリテーターによってより良く引き出されなければならない。
 - 16 意味生成の場では、参加者それぞれがメンター的な役割を果たしている。参加者は自身のこれまでの経験を振り返り、思考し、考えたことを言語化して意見を提供し、それが対話を生み、他の意見に刺激された新たな気づきを生み出し、参加者に自律的・自発的な成長を促す。言語化して認知プロセスの外化を図ることで、自己省察が深まり、更に他者との対話によって学び合いが生まれる。
 - 17 宮川淳「手の失権」の中に見える言葉。上野行一「私の中の自由な美術—鑑賞教育で育む力—」光村図書、2011、P.93

参考文献

- 上野行一(2012)「対話による美術鑑賞教育の日本における受容について」帝京科学大学紀要Vol.8、P.79-86
- 梅田卓夫、清水良典、服部左右一、松川由博(2000)「新作文宣言」ちくま学芸文庫
- 河野麻沙美(2016)「教員養成課程におけるアクティブラーニングの課題と展望—21世紀の学びを創出する教師の育成に向けて—」上越教育大学院紀要Vol.35
- 中野民夫(2004)「ファシリテーション革命—参加型の場づくりの技法—」岩波アクティブ新書69
- Wマコト(2016)「笑いの力」経法ビジネス新書
- 溝上慎一(2014)「アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換」東信堂
- 山中信幸(2018)「ファシリテーターとしての教師の養成—豊かな心を育む生徒指導の実践者の養成に向けて—」川崎医療福祉学会誌Vol.27、No.2

An example of the education in the CHIBA DREAM Campus 2019
HIRONOBU Okamura

キリン「iMUSE」展示体験コーナーを通じた企業連携と地域参加 —正課授業と大学祭を連携させた学年横断プロジェクト—

杉原麻美¹

要約

本稿では、飲料メーカー（キリンビバレッジ）とキャンパス近隣のスーパー（オオゼキときわ台店）との協力により2019年9月～12月に実施したPBLについて報告する。このPBLは、表現学科の学生が制作した広告案を大学祭で展示し、来場者が楽しめるコーナーを設営することを通じ、地域との接点づくりをはかるものである。2年目の取り組みとして強化した1～2年生の有志学生のプロジェクト化を中心に考察する。

1. はじめに ～取り組みの背景と目的～

大学教育にアクティブラーニングが浸透するとともに、企業や地域と連携したPBL（Problem-Based Learning、Project-Based Learning）が広く実践されている。PBLは、正課科目の中で採り入れられることが多いが、大学の正課外活動として学生の任意参加で実施される場合もある。いずれの場合も、解決すべき課題やプロジェクトのゴールが設定され、知識や技能を活用してグループで取り組み、学生には実践的で深い学びを促す効果がある。

人文学部表現学科では、取材記事の執筆、広告企画、動画作品など、最終的なアウトプットとして制作物に取り組む科目があり、これらの科目を中心に担当教員が授業の一部にPBLを採り入れる場合がある。一方、企業や地域と連携したPBLには、関係者との打合せや事前準備などの負荷も大きいことから導入例は限られている。本取り組みは、飲料メーカーおよびキャンパス近隣のスーパーと連携し、「企業連携」「地域連携」の両面を持つPBLで、2018年度から取り組んでいるものである[1]。広告について学ぶ正課科目と大学祭でのコーナー出展をPBLの中で組み合わせている点が特徴として挙げられる。2018年度では筆者が担当する授業およびゼミを連携させ、参加学生のコミットが前提となる形で進めていた。本稿では、2019年度の新たな試みとして、大学祭の企画・運営部分を授業やゼミの単位ではなく、正課外活動としてメ

ンバーを募って大学祭に向けて進めたプロジェクトを中心に報告する。

2. 実施内容

2.1 前年度からの変更点と狙い

2018年度の内容から2019年度に変更したおもな点を表1にまとめた。2018年度は『午後の紅茶』という一般の認知度が高い商品がテーマ商材だったのに対し、2019年度は企業側から『iMUSE（イミューズ）』という機能性飲料の新商品が設定された。学生の大半に飲用経験がなく、商品や広告表記上の留意点などを十分に理解する必要があったため、授業でのガイダンスを充実させて、広告案もグループで練る工程が求められた。そのため、前年度は個人ごとに制作した広告POP（スーパーの店頭で貼り出す前提のポスター）を制作物の中心としたのに対し、2019年度はグループごとに商品販促プランを充実させ、そのプラン上の広告ポスター、広告POPを制作することとした。

そして、上記の授業を担当する教員と、大学祭での出展コーナーを担当する教員とが、役割分担し進めるようにしたのは前年からの大きな変更点である。地域連携センター運営委員を務める筆者は、後者の大学祭側のアドバイザー担当教員として学生のプロジェクト活動を支援することとした。複数の専任教員が連携してPBLを進める取り組みは表現学科ではまだ少なく、今回の取り組みが初めてのものとなった。前学期から

表1 2018年度と2019年度の概要および変更点

	2018年度	2019年度	変更上のポイント
テーマ商材	「午後の紅茶」	「iMUSE (イミューズ)」	
テーマ商材の特性	・30年以上の歴史がある商品ブランド ・認知度が高い ・学生にも購入経験や親近感がある飲料	・新商品で認知度がまだ低い ・機能性飲料（プラズマ乳酸菌） ・広告制作時に、商品や薬機法上の留意点の理解が必要	商材の特性を考え、広告制作は授業内でのグループワークに特化
広告制作の内容	・個人で制作 ①広告ポスター案 ②エントリーシート(想定ターゲット、工夫点)	・グループで制作 ①販促プラン案 ②広告ポスター案 ③広告POP案	
広告制作の参加学生	・「表現文化研究V(創作表現)」履修生14名 ・有志学生10名(3年生6名、1年生4名→個別ガイダンスを実施)	・「表現文化研究I(視覚表現)」履修生20名	
大学祭PJTの参加学生	・3年ゼミ生5名(うち主担当は2名)	・公募による有志学生11名(2年生8名、1年生3名)	学年混合の有志学生でPBL
教員の体制	ひとりの教員が担当	正課授業(2年生向け)とプロジェクト(有志1~2年生)とで教員2名が分担	複数教員で分担

表2 2019年度の実施プロセス

時期	プロセス	淑徳大学				飲料メーカー	地域スーパー
		教員A (授業担当)	授業履修生 (21名)	教員B (PJT担当)	PJT参加学生 (11名)	キリン ピバレッジ	オオゼキ ときわ台店
7~8月	事前打合せ	●		●		●	●
9月10日	授業内 広告課題ガイダンス	●	●			● 授業で特別講義	
9月16日	授業内 店舗視察	●	●			● 店頭視察の同行	● 視察の受け入れ
9月23日 ~10月	授業内 広告プランを作成	●	●				
10月中下旬	— 広告チェック					●	
9月16~17日	昼休み PJT説明会			●	●		
10月2日	昼休み PJTミーティング①			●	●	●	
10月9日	昼休み PJTミーティング②			●	●		
10月16日	昼休み PJTミーティング③			●	●	●	
10月30日	昼休み PJTミーティング④			●	●		
11月6日	昼休み PJTミーティング⑤			●	●		
11月13日	昼休み PJTミーティング⑥			●	●	●	
11月20日	昼休み PJTミーティング⑦			●	●		
11月22日	(終日) 前日準備			●	●	● 資材・飲料提供	
11月23日 11月24日	(終日) 大学祭			●	●	●	●
11月27日	昼休み PJTふりかえり			●	●	●	
11月30日	授業内 広告	●	●			●	
12月上中旬	— 店頭掲示						●

教員と企業側で何度かミーティングを持った後、授業での広告課題の制作指導と、大学祭での企画運営とが並行する形で進化した。表2に、2名の教員の分担と本PBLの実施プロセスをまとめる。

2.2 大学祭に向けたプロジェクト化

前年度の大学祭では、「午後の紅茶 広告POPコンテスト」というコーナーとして出展し、3年ゼミ生の2名が担当となり設営を行った。来場者には、会場に掲示した24作品の広告ポスターから1作品を選んで投票してもらった後、「午後の紅茶」にジュースなどを加えて楽しむアレンジティーの試飲へ誘導した。2日間で339票が集まり盛況であった一方、試飲コーナーのオペレーションではマンパワーが不足する時間帯もあり、キリンビバレッジの社員の方のご協力がなければ運営することが難しい状況も見受けられた。そこで、2019年度は当日のオペレーションを学生だけでまわせるように10名程度のプロジェクトメンバーを募り、コーナーの企画から運営まで学生に任せていく進め方を目指した。メンバー募集は、Sナビにて「プロジェクトメンバー募集★大学祭の企業・地域連携コーナーを企画しよう!」という件名で配信を行った(図1)。主要ターゲットとして考えていたのは2年生だった。1年生はクラスでの出展、3年生はゼミの研究発表があるのに対し、2年生はサークルなどに所属

していない限り、大学祭に主体的に関わるのが少ない。この学生側のニーズとも重なり、最終的に2年生8名、1年生3名の計11名の学生が参加することになった。

2.3 昼休みの定例ミーティング

11名の学生全員が集まることのできる毎週水曜日の昼休みに定例ランチ・ミーティングを開くことにし、最初の自己紹介から通算7回の全体打合せを行った(表2)。学生の様子を見ながら、話し合いやプロジェクトの進め方について適宜教員がアドバイスを加え、キリンビバレッジの方もミーティングに何度か顔を出してくださり、学生からの質問に対応して頂いた。なお、話し合いの滑り出しをスムーズにするために、2回目のミーティングでは、前年度の大学祭を取り仕切った先輩2名(4年生)に参加してもらい、準備や運営で大変だったことや上手くいったことなど具体的な話とともに、自分がPBLに参加して得た学びや、就職活動で生かしたエピソードについて話してもらった。このような授業では接点のない上級生との交流は正課外活動でこそできるものだったので、1~2年生にたいへん好評でプロジェクトに対するモチベーションの醸成につながった。

「プロジェクトメンバー募集★大学祭の企業・地域連携コーナーを企画しよう!」
(地域連携センター)

2019年9月6日(金) 8:46

提示対象: 表現学科1年生~4年生
提示期間: ~令和元年9月18日(水)
【この掲示配信には返信できません】

地域連携センター(東京)より、学生プロジェクトメンバー募集のお知らせです。

11/23(土)・24(日)の大学祭で企業(キリンビバレッジさま)と地域スーパー(オオゼキ)と連携して地域住民の方にも参加して頂ける魅力的なコーナーを作るためのプロジェクトメンバーを募集します。
興味のある人は、以下の説明会に出席のうえ、参加エントリーしてください。

【対象学生】 人文学部 1~4年生

【申込方法】 説明会に参加のうえ、その場で参加申込書を記入

【説明会】 ※両日の内容は同じ。

9/17(火) 昼休み(12:25~12:50) 4号館 3階フリースペース
9/18(水) 昼休み(12:25~12:50) 4号館 3階フリースペース

【こんな人におすすめ】

- ・大学祭を盛り上げたい!
- ・イベントの企画やデザインを考えるのが好き!
- ・自己PRに書けるような経験を積みたい!
- ・学年やクラスが異なる人と交流したい! etc.

【おもな活動】

10月から定期的なミーティングを開き、コーナーの企画内容を決め、準備を行います。企業の方との打合せやプレゼンテーション等も予定しています。大学祭の後も振り返りを行い、一連のプロジェクトを通じて、スケジューリングやプロジェクトマネジメントの力が身につくことを目指します。

(プロジェクトのアドバイザー教員: 表現学科 杉原先生)

(窓口) 東京キャンパス 地域連携センター 生協・杉原

図1 学生募集のSナビ告知文



図2 定例ミーティングの様子

2.4 学生考案のコーナー企画と当日の様子

プロジェクトで話し合う内容の中心は、コーナーの企画をどのようなものにするかであった。広告プランの掲示・投票、試飲という要素は前年度を踏襲しつつ、来場者の目に留まり『iMUSE』という商品に関

心を持ってもらえるコーナーをどのようにして作るか、学生からさまざまなアイデアが出るものの当初はなかなかまとまらなかった。キリンビバレッジの担当の方から「このコーナーは、来場者の方に純粋に楽しんで参加していただけることを考えてもらったら良いと思います」と助言していただいたことをきっかけに学生の方が具体的に、結果的に発案者の熱量が高かった「パステルシャインアート」の体験企画に絞られた。この企画は、iMUSEの明るく澄んだ印象のテーマカラーから着想を得たという。iMUSEをかたどった葉の上に、粉状にしたパステルをのせてうっすらと色を重ねて完成させるアートで、子どもでも参加できる特徴がある。当日は、家族連れや友達どうしでの参加希望が多く、楽しそうに作業をしている様子がコーナー全体の着目率を高める効果もあった(図3、図4)。また、会場のデザインはiMUSEのテーマカラー

で統一し、机の中央にiMUSEのボトルを重ねて作ったボトルアートを展示した。

会場の一画には、広告プランの展示と投票コーナーを設けるとともに、プロジェクトメンバーのシフト制で投票や試飲の声を積極的にに行った(図5、図6)。結果、広告の投票が380票、試飲が約500杯に上り、昨年に劣らぬ多くの集客数を確保することができた。



図3 当日の様子



図5 広告プランの展示・投票コーナー



図6 試飲の呼びかけ



図4 パステルシャインアートとボトルアート

2.5 プロジェクト活動のふりかえり

無事に大学祭を終え、その翌週にこれまでの活動をふりかえる最終ミーティングを行った(図7)。経費精算や諸連絡の後、当日の写真を映写しながら、図8のループリックを各学生が記入し、このプロジェクトで自分が学んだことや他メンバーでいい動きをしていたと感じた人とその理由を順番に発表してもらった。このループリックは、淑徳大学で共有されている「目標型コモンスループリック全体版(チームワーク)2013」をもとにアレンジしたもので、学生にはプロ

プロジェクト内での自分の行動や他者の行動についてふりかえてもらう目的で採用した。自分が十分にできなかった部分があったとしても、それを誰がどのようにカバーしてくれていたかを言葉にし、自覚することによって、今後の自分の行動に生かすふりかえりを行ってもらうことを目指した。実際に、プロジェクトの中ではリーダーの体調不良などで途中の進行が滞った場面があったが、複数人の副リーダーがカバーし、各自ができることを声がけしながら進める様子が見られた。ふりかえりに際し、リーダーからそのことへの感謝の言葉や労いの言葉がかけられていた。



図7 ふりかえりミーティングの様子

2.6 店頭での掲示

12月には、大学祭で得票の多かった広告ポスターが、オオゼキときわ台店の店頭に掲示された(図9)。大学祭ではこの期間に使用できる無料引換券も配布しており、大学祭をきっかけに商品を認知しスーパーの店頭を訪れる来場者も多数確認できた。



図9 オオゼキの店頭に掲示されたポスター

【ループブック】 2019年 地域連携 キリン「iMUSE」プロジェクト ～協働・チームワークに関するふりかえり用～

学籍番号 _____ 氏名 _____

定義：ディスカッションや協働作業における自分の行動について（話し合いに対する貢献、協働作業への参加状況、他のメンバーや企業の方との交流におけるマナー）

ふりかえる具体的な場面 ●定例ミーティングにおける協力・貢献（ディスカッションへの参加、話し合いが円滑に進むための働きかけ など）
 ●プロジェクト内での担当作業へのコミットメント
 ●準備作業での協働・チームワーク
 ●当日運営での協働・チームワーク

	4	3	2	1
グループでの話し合いへの参加	グループでの話し合いにおいて、話し合いを進展させるような建設的発言を積極的にしている	グループでの話し合いにおいて、発言を行い、話し合いをリードしている	グループでの話し合いにおいて、関連する発言を行っている	グループでの話し合いの場に参加している
グループメンバーの話し合いへの参加の促進	メンバーの発言に対して、他のメンバーがそれに関連づけて発言できるような話し合いの流れを作り出すことで、メンバーの積極的参加を促している	メンバーの発言を整理し、関連づけた上で発言するなどして、メンバーの積極的参加を促している	メンバーの発言に対して、あいづちをうつ、うなずくなどで理解を態度に示すことで、メンバーの話し合いへの参加を促している	メンバーの話を遮ることなく聞くようにしている
プロジェクト内での担当作業や準備作業への参加	主体的に担当作業に関わり、周囲の意見や情報を拾いあげながら、タイムリーに報告・連絡・相談を行い、作業が円滑に進むようリードしている	担当作業について、周囲の意見や情報を拾いあげながら、作業が円滑に進むようリードしている	担当作業について、周囲の意見や情報を拾い上げながら進めている	担当作業を周囲と協力しながら行っている
プロジェクト活動の雰囲気作り	プロジェクトの状況の変化に応じて、率先してチームの雰囲気をより良くする、あるいは雰囲気が悪くなった時にはそれを解消するような発言や行動をしている	チームの雰囲気を良くするために、自ら率先して発言や行動をしたり、メンバーのサポートをしたりしている	チームの雰囲気が良くなるようにメンバーに合わせた発言や行動をしている	チームの雰囲気を悪くするような発言や行動をしたり、態度に表したりすることなく、チームに参加している

～ MEMO（気づいたこと、学んだこと、うまくいったこと、メンバー内でいい働きをしていたと感じた人とその内容 等）～

図8 プロジェクトのふりかえりで使用したループブック

3. 考察・まとめ

今回の取り組みでは、授業やゼミではない有志学生によるプロジェクトを地域連携センターという窓口のもとで運営していくことを試みた。前年度では一教員があらゆるステークホルダーとの接点となり進めていたPBLの進め方を見直し、組織全体で適正化をはかり運営上のノウハウと道筋を作ることができた。

学生、教職員にとって有意義だった点を以下にまとめる。

〈学生の立場から有意義であった点〉

- ①クラスやゼミに属さない2年生を中心に、大学祭という目に見えやすいゴールに向けて協働して取り組むプログラムになった
- ②企業や地域の人との関わりの中で、多面的な視点が得られる機会を提供できた
- ③普段は接点が少ない学年間の交流がはかれた

〈教職員の立場から有意義であった点〉

- ①複数の教員が連携・分担することによって、限られたマンパワーでも大学祭で学部・学科の特色を反映したコーナーづくりが継続できた
- ②地域連携センターという窓口を実質化し、正課外プロジェクト活動の募集から運営支援、学生のふりかえりまでの一連の流れの雛形ができた

一方、今後の課題に挙げられるのは、このような正課外プログラムを現在の人員体制で実践していくうえでの限界である。とくに授業に比して、正課外プログラムでは費やすことのできる労力や教職員のコミット、モチベーションにも限りがある。学生にとって有意義な活動であっても、継続的に行うためには、他キャンパスのノウハウや連携を強化してより効果的な運営内容を模索していくことが必要であろう。

謝 辞

今回の取り組みでご協力いただいたキリンビバレッジの皆さま、オオゼキときわ台店の皆さま、学生支援部の皆さま、キャリア支援室長・地域連携センター委員の生駒氏に深く感謝いたします。

注

- 1 淑徳大学人文学部表現学科准教授

引用文献

- [1] 杉原麻美「飲料メーカーおよび近隣スーパーとの協働によるPBL：キリン『午後の紅茶』広告POPコンテストを通じての地域参加」『淑徳大学地域連携センター年報第3号』淑徳大学、2019

2019年度大学地域連携センター 事業報告

I. 大学地域連携センターの取り組み

1. 私立大学等改革総合支援事業への申請

2018年度にちば産学官連携プラットフォームとして申請し、選定された私立大学等改革総合支援事業タイプ5（プラットフォーム形成）が、タイプ3「地域社会への貢献」（プラットフォーム型）に変更された。ちば産学官連携プラットフォームとしては、改めて、私立大学等改革総合支援事業タイプ3「地域社会への貢献」（プラットフォーム型）に申請することとし、本学が申請取りまとめ校として承認を得て、大学地域連携センターが申請取りまとめの担当部署として、申請に係る業務を進めた。また、今年度については、昨年度の申請校に加え、新たに植草学園大学、植草学園短期大学、神田外語大学が申請することになり、プラットフォーム参画校（申請校：9大学・短大）と連携・協力し、申請作業を進め、2020年2月に選定されたことが発表された。

2019年度の私立大学等改革総合支援事業タイプ3「地域社会への貢献」（プラットフォーム型）の選定状況は、以下の表1の通りとなった。

2019年度の選定率は、全体で67%、大学で71%であった。2018年度と比較すると、選定率は増加しているが、申請校数が247校から195校と約21.1%の減少となっている。一方、選定校数は134校から131校とほぼ変わっていない。この点から、選定率の増加は、申請校数が減少したことが要因と考えられる。私立大学等改革総合支援事業タイプ3では、プラットフォームの形成やスタートアップを支援する意味合いからプラットフォームの活動の充実と発展を支援する意味合いに変わってきており、その実績が求められるようになってきている。つまり、活動が継続し、または実績が伴わない場合は、申請自体が難しくなるということが想定される。このことは、今後の私立大学等改革総合支援事業の申請に向けても、プラットフォーム全体として共有すべき課題認識であると考えられる。

表1 2019年度の私立大学等改革総合支援事業タイプ5（プラットフォーム形成）選定状況

	申請数			選定数		
	地方型	都市型	合計	地方型	都市型	合計
プラットフォーム数	20	11	31	14	9	23
大学等数	90	105	195	63	68	131

（出所）文部科学省WEBページ https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shinkou/07021403/002/002/1340519.htm

2. 履修証明プログラム事業

「履修証明制度」は、大学等の積極的な社会貢献を促進するため、学生を対象とする学位プログラムの他に、社会人等の学生以外の方を対象とした、60時間以上の一定のまとまりのある学習プログラム（履修証明プログラム）を開設し、その修了者に対して法に基づく履修証明書を交付できるという制度である。2019年度には、これまで準備を進めてきた本学の履修証明プログラムの取り組みについて、2019年度後期より、千葉キャンパス授業開放講座と合同で、履修証明プログラム「利他共生社会と教養プログラム」を開講した。

淑徳大学千葉キャンパス

「利他共生社会と教養プログラム」

◆履修証明認定条件

- ①各科目区分から1科目以上、計6科目を受講
- ②オリエンテーション（利他共生社会（「共生論」「仏教福祉論」）、千葉学等）
- ③現代社会の問題を考えるための教養を学ぶ科目区分・開講科目（計20科目）
 - ・人間理解科目（5科目）
 - 「現代人の生活倫理」「人間の心理と行動」「健康科学と身体運動」「心と身体の健康管理」「チームワークとリーダーシップ」
 - ・文化理解科目（5科目）
 - 「日本社会と歴史文化」「アジアの文化と暮ら

- し」「文学作品と文学表現」「伝統文化と民俗世界」「多文化と異文化理解」
- ・社会理解科目（5科目）
「経済構造と経済政策」「法律社会と人権問題」「政治社会と行政問題」「福祉政策と社会保障」「社会貢献と地域活動」
 - ・国際理解科目（5科目）
「宗教社会と民族文化」「国際関係と外交課題」「世界動向と国際貢献」「環境保護と野外活動」「生命科学と生命倫理」
- ④現代社会の問題を探究するための基礎的な知識を深める 開講科目（計14科目）
- ・心理学を探究する（4科目）
「心理学概論」「組織心理学」「犯罪心理学」「高齢者心理学」
 - ・地域や社会の仕組みや政策課題を探究する（10科目）
「現代社会論」「マクロ経済学」「ミクロ経済学」「憲法」「民法（総則、物権法）」「債権法」「労働法」「公共政策論」「地域政策論」「地域振興論」
- ⑤上記科目に加え、淑徳大学の正課外活動（フィールドワーク）への参画も学修時間に加えることができるようにする。（例：地域連携・社会連携のプログラム、ボランティア活動、公

開講座 等)

3. 共同研究事業及び連携事業（受託事業）

共同研究事業及び連携事業（受託事業）については、2019年度の目標を5件と設定し、表2の通り5件の受託事業を実施した。

また、産官学連携事業については、包括連携協定や産学連携に関する覚書等に基づき、表3の通り5件の取り組みを進めた。特に、キリンビバレッジ株式会社東京支社・千葉支社とは、産学連携に関する覚書を締結し、商品開発の提案や広告・ポスターの提案等を行った。またNTT東日本千葉事業部とは、秘密保持契約を締結した上で、取り組みを進めた。

2019年6月27日には、千葉県生涯大学校と本学との間で、「千葉県生涯大学校と淑徳大学との包括連携協定」が締結された。千葉県生涯大学校は、60歳以上の県民の皆様の生涯学習の場として、昭和50年に開校され、多くの方が学び、地域活動に参画されてきた歴史を持つとともに、卒業生の方々も地域におけるボランティア活動などを通じて地域社会に貢献されてきた。これまでも本学の教員が千葉県生涯大学校の授業の講師を務めたり、淑徳大学が企画する公開シンポジウム、研究会に千葉県生涯大学校の関係者や学生が参加するなど、教育研究を通じた交流を行ってきた。この

表2 2019年度の共同研究及び連携事業（受託事業）一覧

	事業名	受託元	受託業務責任者
1	千葉市子ども若者市役所事業	千葉市	矢尾板俊平
2	生涯活躍のまち施策に関する共同研究	笠間市	矢尾板俊平
3	地域密着型スーパーマーケットの新たな競争戦略に関する共同研究～地域密着型スーパーマーケット（LSM）の競争戦略に関する分析～	一般社団法人全国スーパーマーケット協会	矢尾板俊平
4	地域密着型スーパーマーケットの新たな競争戦略に関する共同研究～スーパーマーケット・アワードの創設に関する基礎研究～	一般社団法人全国スーパーマーケット協会	矢尾板俊平
5	地方創生促進事業「酒々井宿の食の再現2」事業	酒々井町	桑原節子

表3 2019年度の産官学連携事業一覧

	連携先	内容
1	キリンビバレッジ株式会社	①コミュニティ政策学部（「コミュニティ研究Ⅱ」） ②人文学部（「表現文化研究Ⅰ（視覚表現）」）
2	東日本電信電話株式会社千葉事業部	①コミュニティ政策学部（「コミュニティ研究Ⅱ」）
3	酒々井町	①経営学部（「広報ニューしすいYong Eyes」編集委員）
4	自治体コンシェルジュ協議会	①笠間市「移住・定住に関する調査」への協力
5	千葉県生涯大学校	千葉県生涯大学校の授業への講師派遣等

ような経緯から継続的な連携協力関係を構築するため、包括連携協定を締結することになった。



千葉県生涯大学校と淑徳大学との包括連携協定

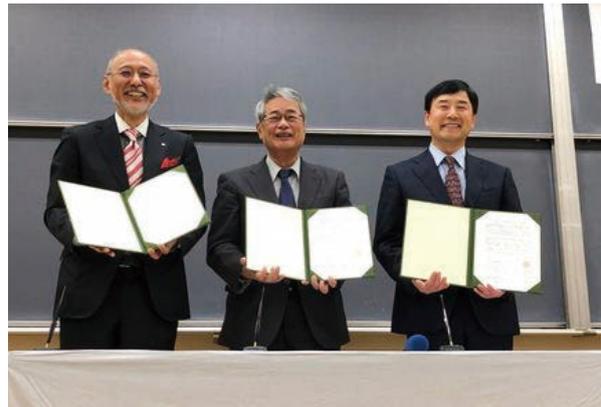
1. 淑徳大学の学部学科の専門性を活かした生涯教育の展開に関する事
2. 淑徳大学が実施する研究調査に関する事
3. 生涯大学校が実施する授業や大学校の学生・卒業生の地位活動等への支援に関する事
4. 生涯大学校と淑徳大学の学生による世代間交流に関する事
5. 淑徳大学の施設利用に関する事
6. その他前述の目的を達成するために必要な事項に関する事

4. 大学間連携事業

2019年12月14日に、京都文教大学、埼玉工業大学と本学の三大学において、「地方と東京圏の大学生対流促進事業の共同実施に関する協定」を締結した。2019年6月に採択が決定した内閣府地方創生支援事業費補助金（地方と東京圏の大学生対流促進事業）「産官学民『ともいき学習』による持続可能な地域社会創造人材育成」（代表校：京都文教大学、協働校：埼玉工業大学・淑徳大学）事業を推進することを目的に、相互の学生・教職員が交流・対流を行い、地方創生の取り組みに寄与していくことを目的に大学間の連携取り組みについて定めるものである。

本事業では、単位互換制度を活用した「国内留学」プログラム（長期プログラム）や短期間の滞在で現地調査や地域活動に参加する短期プログラムを実施し、各大学が有する資源やネットワークを活用しながら、

観光や地域づくりの分野で、学生の「学びの場」を広げていくとともに、学生や教職員が地域の課題解決に関わることで、地方創生の取り組みに貢献していくことを目指している。本学では、大学地域連携センター、千葉キャンパスに所在するコミュニティ政策学部と埼玉キャンパスに所在する経営学部が事業を推進している。



地方と東京圏の大学生対流促進事業の共同実施に関する協定

1. 各大学の地域連携基盤を最大限活用し、現在の日本社会で生じている地域課題の「今」を学ぶ
2. 自分が生活する以外の他地域を学ぶことで、2つ以上の地域を比較し、俯瞰的で複眼的な視野と思考を身につける
3. 各大学が地域の拠点となり、それぞれの地域で産学公民が協働して、地域課題の解決に取り組む体制を構築する
4. それら地域全体が学びのキャンパスとなり、地域全体で課題意識・解決能力を持った人材を育成し、輩出する

5. 高大連携事業

2019年7月11日に、千葉県立生浜高等学校と淑徳大学との間で、高大連携に係る「千葉県立生浜高等学校と淑徳大学との教育連携に関する協定」を締結した。本協定では、相互の教育資源を活用し、双方の生徒・学生が交流し、高校と大学との連携を通じて、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的としている。

生浜高校と淑徳大学は、平成27年度に、本学総合福祉学部及びコミュニティ政策学部の学生・教職員が生浜高校の教職員と連携して、「しゅくとも」(学生主体のプロジェクト、平成28年度より淑徳大学サービスラーニングセンター学生提案プロジェクト)を立ち上げ、継続的に活動してきた。活動では、生浜高校での学習・教育支援活動に取り組むとともに、双方の生徒・学生が相互に文化祭や大学祭に参加したり、生浜高校の生徒が、淑徳大学の学生が企画・運営する地域活動にも参加したりするなどの交流・協働の取り組みを進めてきている。このような経緯から継続的な連携協力関係を構築するため、教育連携協定を締結することになった。



千葉県立生浜高等学校と淑徳大学との教育連携に関する協定

1. 淑徳大学の専門性を生かした生浜高校の生徒への学習支援活動における連携
2. 両者の文化祭における連携
3. 両者の企業・地域等と連携した体験活動や、生浜高校の生徒が淑徳大学の講義に参加することなどを通じたキャリア教育における連携
4. 両者のサークル活動および部活動など課外活動における交流
5. その他、目的を達成するために必要な連携

II. 各キャンパスでの取り組み

1. 千葉キャンパス

千葉キャンパスでは、千葉キャンパスにおける地域連携(産学連携)・社会連携の取り組みには、学生が

参加するサービスラーニングの学びや多様なボランティア活動、地域の祭事の企画・運営への参画、授業開放講座がある。ここでは、上記の活動の内、サービスラーニング活動と授業開放講座における実施内容の検証、課題抽出、改善のための対応を記載する。

サービスラーニング活動とは、「地域との連携で参加型・双方向型の体験学習を行い、地域で学んだことをさらに自ら学問研究や進路について視野を広げていく新しい教育プログラム」のことである。千葉キャンパスに設置されているコミュニティ政策学部では、「実践科目」としてサービスラーニングが正課のカリキュラムに取り入れられている。また、サービスラーニングセンターによる独自のプログラムが企画・運営されていることで、多くの学生が体験学習を通じて地域連携、社会連携の活動を行っている。

サービスラーニングセンターの活動においては、令和元年度から事前事後学習を深めることを狙いとして、各プログラムの中にも「振り返り会」を実施するように改善した。また、令和元年度よりスタートしたプログラムは、学生の認知度が低く、参加学生が少ないという事が課題に挙がっており、プログラムの認知度を上げることによって参加拡大を目指す必要が生じた。今後は、サービスラーニングセンターの独自プログラムについて、ルーブリックを活用していくことも検討する。

授業開放講座は、大学の教育・研究を広く地域に提供することを目的に、正課の授業の一部を一般の方々に開放するという取り組みである。令和元年度は、前期に37科目、後期に33科目を開放の対象として実施し、前期17名、後期10名が参加した。参加者について検証したところ、以前にも参加した方が再び受講をしている(いわゆる、リピーター)という傾向が見て取れた。具体的には、それまでに参加をしたことがない受講生の人数は、前期が2名、後期が1名であり、大半の参加者がリピーターとなっていた。そこで、令和元年度中に準備を行った令和2年度前期の受講生の募集にあたり広報の方法を変更した。従来は、大学HPへの掲示と近隣の方々に新聞の折り込みチラシを通じて広報を行っていたが、令和2年度前期においては、新聞の折り込みチラシから「ちいき新聞」への広告の掲載に変更を行った。その結果、これまでとは異なる方々の目に留まり、千葉キャンパスにおける学びの門戸を新たな方々に広げることができた。

(1) 自治体との連携事業について

「パラスポーツ講座・交流会の開催など共生社会の実現に向けた取組み」に、千葉キャンパスの学生が企画・運営に参加している「長谷川良信記念・千葉市長杯争奪車椅子バスケットボール全国選抜大会」がある。学祖の名を冠するこの大会は、2010年の第1回企画から千葉市、(公財)千葉市スポーツ協会、淑徳大学の3者が、例年、3月上旬に共同で開催している。令和元年度においても例年通り、2020年3月7日、8日の開催に向けて準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の流行の影響で令和元年度の大会は中止となった。

また、千葉市動物公園と連携して行っている取組である「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」は、障がいのある子どもたちとご家族を気兼ねなく楽しいひとときを過ごしてもらうことを目的に閉園中(休園中)の動物園に無料で招待する、毎年開催されている国際的な取り組みである。千葉市動物公園では2010年の開始以来、淑徳大学も運営に携わっており、千葉キャンパスで特別支援教育を学ぶ学生が実行委員として参画している。令和元年度の実施当日は、60名を超える学生が、スロープでの車いすの介助、小動物とのふれあいのサポートなどを行った。

(2) 締結している自治体以外との自治体との連携事業【千葉県生涯大学校】

これまでも淑徳大学の教員が千葉県生涯大学校の講師を務め、本学が企画する公開シンポジウム、研究会に千葉県生涯大学校の関係者や学生の皆様が参加するなど、教育研究を通じた交流を行ってきた。このたび締結された千葉県生涯大学校と淑徳大学の包括連携協定は、地域での生涯学習や学び直し機会の創出促進と、地域社会が抱える課題解決のための取り組みへのサポートに寄与するものである。

【千葉県立生浜高等学校】

生浜高校と淑徳大学は、平成27年度に総合福祉学部およびコミュニティ政策学部の学生・教職員が生浜高校の教職員と連携して「しゅくとも」を立ち上げ、継続的に活動を行ってきた。「しゅくとも」の活動は、月に2回程度、生浜高校へ赴き、学校生活などに不安のある生徒に向けてコミュニケーション練習会や相談会を行うというものである。この活動によって、生徒たちの苦手意識を軽減させて高校への定着率・出席率

向上を目指している。令和元年10月には龍澤祭に生徒を招き、大学を案内した。生浜高校との連携事業では「しゅくとも」の他に、コミュニティ政策学部・矢尾板教授の研究室が開催した「主権者教育キックオフミーティング」に生浜高校の生徒が参加したり、矢尾板教授による生浜高校での出張授業が行われている。

【地方と東京圏の大学生対流促進事業の共同実施に関する協定】

京都文教大学を代表校、埼玉工業大学と淑徳大学を協働校とする「産官学民「ともいき学習」による持続可能な地域社会創造人材育成」事業では、単位互換制度を活用した国内留学プログラム(長期プログラム)や短期間の滞在で現地調査や地域活動に参加する短期プログラムを実施する。各大学が有する資源やネットワークを活用しながら、観光や地域づくりの分野で、学生の「学びの場」を広げていくとともに、学生や教職員が地域の課題解決に関わることで、地方創生の取り組みに貢献していく。令和元年度における具体的な活動として、12月14日に京都文教大学で開催された「ともいきフェスティバル2019」と同時に開催された「第7回浄土宗門大学社会連携企画報告会」において、本学の学生がサービスマーケティングの取組について報告を行った。また、本会において、本学の学生たちは、他大学の学生との交流を通じて、文化や風土など、千葉と京都の地域資源の違いを体感的に学び、報告会を通じて、多様な学び方があることを学ぶことができた。

(3) 企業、経済団体、NPO団体等との産学官連携事業について

サービスマーケティングセンターの独自プログラムとして、千葉ロッテマリーンズ「淑徳大学スペシャルナイター」、「東京ディズニーリゾートの旅」をテーマとした企画づくりプログラム、そして、東京ガールズコレクションプログラムがある。

千葉ロッテマリーンズ「淑徳大学スペシャルナイター」は、プロ野球球団である千葉ロッテマリーンズと連携し、マリナーズの試合観客数アップを目標としたさまざまな取り組みを行うプログラム。千葉ロッテマリーンズの主催ゲームの内、毎年1試合が「淑徳大学スペシャルナイター」として開催されている。参加学生はこのスペシャルナイターにおいて様々な企画を実施すべく、球場を調査して企画案を検討し、マー

ンズの球団職員にプレゼンし、企画した内容は、淑徳大学スペシャルナイター当日、球場における催しとして開催され、参加学生自らの手によって運営される。

「東京ディズニーリゾートの旅」をテーマとした企画づくりプログラムは、東急ホテルマーケティング支配人である三橋徹外部講師との連携によって実施される。令和元年度は、6月から11月にかけて月に1回、参加した学生たちは、三橋外部講師から東京ディズニーリゾートをとりまくホテルや旅行業界の取組、業界の置かれている現状や展望を学ぶ。

東京ガールズコレクション (TGC) プログラムは、同イベントの企画・制作会社である㈱W Tokyoと連携して実施されるプログラム。大学で行われる事前学習を経て、TGCの現場スタッフを体験し、キャリア形成につながる実学を身につけることを目的とするインターンシップを実施。令和元年度の参加者は、事前学習においてTGCの目的や歴史、地域貢献について学んだ後、前日業務としてステージリハーサルにおけるモデルの代役や出演者誘導の確認、当日業務として物販の補助やモデルの衣装替えサポートなど、会場運営のサポートを行った。

また、コミュニティ政策学部1年生の必修科目「コミュニティ研究」や3、4年生の必修科目「ケーススタディ」と「ワークショップ」においても、近隣地域の行政機関や企業を訪問して学びを深めている。具体的な取り組みとして、「コミュニティ研究Ⅱ」における「キリンビバレッジコース」の取り組みでは、キリンビバレッジ株式会社東京支社、同千葉支社の協力を得て、「生茶」に合うお惣菜を使ったお弁当を学生が製作して、地元のスーパー「せんだう」にプレゼンした。その結果、本学学生と生浜高校の生徒が提案した商品が2020年2月から順次発売されることになった。また、実演での販売にあたり、POPの作成を行い、キリンビバレッジから実演販売の方法を教えた。参加した学生は実際に販売の方法の練習を行った。

(文責：徳村・松崎)

2. 千葉第二キャンパス

千葉第二キャンパスでは、平成31(2019)年度で7年目となったボランティア講座における活動が地域連携・社会連携の中核となっている。これは、看護栄養学部の地域連携委員会と松ヶ丘中学校地区の諸団体や

住民が連携し、学生が地域でのボランティア活動を通して、共生の理念を具現化し、将来のボランティア活動に自ら参画・企画する能力を培うことを目的とする事業であり、例年「ボランティア講座・地域連携事業報告書」として、活動の総括を行っている。

ボランティア講座で実践した主な活動は以下のとおりである。

- ・淑徳オレンジカフェ (認知症カフェ) (全10回)
- ・松ヶ丘中学校区「子ども食堂」(全6回)
- ・松ヶ丘ふるさと祭り、こども110番協力家庭の訪問
他

この他に、松ヶ丘地区との連携において、教員による健康教育・栄養講話を全14回行った。

平成31(2019)年度で第10回目となった千葉東病院との連携事業「腎臓にやさしい減塩料理教室」は、例年どおり、慢性腎疾患等で減塩を必要とする患者や家族がキャンパス内の調理実習室を利用し、調理実践を通して栄養食事指導を得る機会となった。

また、平成30年度に引き続き、今年度も「健康フェスタ」を開催し、第1回(8月)を千葉県生涯大学校京葉学園、第2回(10月)を松ヶ丘公民館で行い、身体計測、血糖値チェック、AGEs測定、学生と教員による健康相談等の機会を提供することで、地域住民の健康づくり支援と、教育研究活動の一端を地域に還元する取り組みを行った。この他に、キャンパス施設利用による社会連携として、川戸地区の敬老会会場に学生食堂を提供し、川戸地区の高齢者の長寿を祝う会として、地区の児童・生徒がお祝いに集い、広く淑徳大学千葉第二キャンパスを認知してもらおう機会となった。

(1) 自治体との連携事業について

自治体との連携事業については、「加曾利貝塚縄文春祭りへの出店」、「イボキサゴを利用したレシピの開発」(千葉市教育委員会、加曾利貝塚博物館、株式会社implement)、「マタニティクラス・沐浴教室」(千葉市中央保健センター健康課)等、大学との包括連携協定の枠組みにおける連携事業を行った。また、令和元年度から新規で、酒々井町の町制施行130周年の連携事業として、「江戸時代の料理(大名御膳・旗本御膳)の再現」を行った。

(文責：櫻井一雄)

3. 埼玉キャンパス

埼玉キャンパスでは、大学地元のみずほ台駅西口商店会主催の「みずほ台祭り」に「企業経営研究」等で学生ボランティア派遣、鶴瀬西口商手会連合会主催の「鶴瀬よさこい祭り」の実行委員会にゼミの学生派遣、地元「石坂産業」に経営学部の特年授業「フィールドワーク」で学生派遣、「ふるさと村」や「エコパーク」で顧客接客事業を行っている。また、近隣の幼稚園・保育園・子育て支援センターに「淑徳わくわく遊び隊」として「パネルシアター」等への教育学部の学生派遣を行っている。

イベントだけへの学生の参加だけでなく、企画・実施・振り返りまで長期的に参加できるプロジェクトへ学生を参加させることが望ましく、学生の社会参加意識も増し、一過性に終わらないイベント・行政・ステークホルダー・社会への理解が高まるであろう。現在、その方向で、学生派遣をプロジェクト毎に行っているが、今後は、その方法論や連携のあり方を微調整して、よりよいものにしていくことになる。

(1) 自治体との連携事業について

富士見市教育委員会生涯学習課との連携事業で「子ども大学ふじみ」「子どもスポーツ大学ふじみ」へ実行委員長および企画運営を担当する教育学部学生を派遣、同じく三芳町教育委員会・中央公民館との連携事業で「子ども大学みよし」へ実行委員長および企画運営をする教育学部学生を派遣している。富士見市の鶴瀬公民館の事業である「ピースフェスティバル」「富士見市子どもフェスティバル」に教育学部の学生派遣、三芳町・富士見市・川越市等 教育委員会に教育学部の学生を学習支援ボランティア派遣、川越市内の各小中学校に障害のある児童生徒に特別支援教育学生支援員を派遣、富士見市の総務部に経済センサス基礎調査の実務を行う学生を派遣、三芳町オリンピックアード推進課と女子柔道部との連携事業で、オランダナショナルチームとの合同練習、公開練習、広報活動等を行い、所沢生涯学習推進センター講座では、講座の企画、講師斡旋等を行っている。他に富士見市総務部総務課が淑徳大学に広報漫画制作を依頼してきたが、人文学部の表現学科に相談し、漫画制作できる学生を探し、制作を依頼、完成作品が富士見市広報誌に掲載された。他、地元自治体には教員が、各種審議会・協議

会に参加している。

三芳町、富士見市とは長年の連携事業の歴史があり、大学の教育プログラムの中にも事業が組み入れられているものも多い。学生にとっても貴重な社会経験実践の場となっている。なお、今後若干の拡大の余地はあるが、大学の教員・学生のマンパワーを考えるとすでに限界に近づいていると考えられる。一方で、より高度な研究事業等は近隣の自治体とは行われていない。各基礎自治体も財政的に厳しいものがあり、受託研究というよりは、市民参加のフォーラムやイベントに大学も「市民」として参加して欲しいという方向性のように思われる。

大学で学生を巻き込んだ高度な受託研究を獲得するには、学生の訓練も必要となり、その力を発揮できるのは、4年生頃だと考えられるが、4年生が時間を割いて研究時間を設けるとするのは、本学にとっては、かなりハードルが高いと考えられる。埼玉キャンパスは残念ながら大学院がないので、大学院生を含めた一定のリサーチ力を持った調査研究は難しい。学部学生では、まずマナーや社会常識から指導していかなくてはならない。2年生だとまだマナー等にも問題があり、下手に現地調査をやらせると、大学の評判を下げてしまうリスクがある。一方リサーチ経験をまずは教員が積む必要がある。

(2) 締結している自治体以外との自治体との連携事業

横瀬町および「道の駅果樹公園あしがくぼ」と、淑徳大学経営学部との間で連携事業を行う。2019年度で4年目、岩村ゼミが担当。今年度は登山道の調査、登山道の落ち葉掃き、農家への聞き取り事業を行い、登山ルートに関する提言を町長、道の駅支配人、および農家の方々に行った。関連した国土交通省関東整備局主催の「道の駅学生コンテスト」に参加し「奨励賞」を受賞したが、コロナウィルスのためにコンテストのプレゼン大会が中止となった。また、志賀高原観光協会との連携事業で「学生による志賀高原観光振興プロジェクト」を観光経営学科の吉田ゼミが行い、夏期休暇を利用して店舗の経営に携わった。教育学部高橋敏ゼミでは「秋田県東成瀬村立東成瀬小学校教育研究訪問」で、学習支援を行居、同時に当村の教育環境を学んだ。

これらの近隣自治体以外との自治体関連事業は、各教員が長年の関係性を通して生まれたものが多い。現

地の動きや人脈がある程度分かっていないと質の高い事業は生まれず、1年だけの単発連携事業に終わってしまうであろう。一度始めた連携事業は継続しながら事業を展開していくことが必要だと考えられる。その過程の中で、研究もできるようになるであろう。

(3) 企業、経済団体、NPO団体等との産学官連携事業について

観光経営学科の堀木・竹中・永井・吉田合同入門セミナーでは、川越市観光協会との連携事業で1年生に川越観光の問題点を学生目線で抽出させた。

(文責：岩村沢也)

4. 東京キャンパス

2019年度で開設6年目を迎えた人文学部は、学科の特徴や専門性を活かした地域連携、社会連携の取り組みが充実してきたと評価できる。その背景には、学部開設当初から連携先開拓や授業との接続に専任教員が尽力してきたこと、そして東京キャンパスの短期大学部が長年の共生体験活動を通じ地域のパイプ作りやボランティア・コーディネートの知見を重ねていたことが挙げられる。2019年度の取り組みでは、これまで継続してきた事案に加え、歴史学科、表現学科のそれぞれの専門性を生かした新たな取り組みや千葉キャンパスと連携した活動も生まれている。今後は、他キャンパスの取り組みを参考としながら、さらに組織的な共同研究や受託事業の可能性を広げていくことが期待される。一方、人文学部の専任教員は15名と少なく、職員は人文学部と短期大学部の両方の業務を担当していることから、教職員の人的リソースは限られている。そのため、取り組みに伴う負荷と効果を検証しながら優先順位の高いものに随時シフトすることや、運営のオペレーションを効率化できるノウハウを他キャンパスと共有しながら蓄積していくことも必要であろう。

(1) 自治体との連携事業について

1) 板橋区と連携した活動

歴史学科の教職課程履修学生を中心に有志の学生が参加する活動と人文学部の専任教員が参加する講座を継続的に行っている。おもな事業は以下の通り。

- ・学習支援ボランティア（板橋区教育委員会：登録29名、実施11名）

- ・認知症サポーター養成講座（板橋区おとしより保健福祉センター：26名が参加）
- ・板橋区MOTENASHIプロジェクト（板橋区総務部人事課 他大学の学生との協働PBL：1名が参加）
- ・大学公開講座（板橋区と共催。「伝える力」をテーマに表現学科の専任教員6名が担当。9月24日（火）～11月19日（火）全6回）隔年で継続して実施。

2) 板橋区の施設や関係部署と連携した授業の実施

学部共通でキャンパス近隣でのフィールドワークに取り組みほか、各学科の専任教員が区の施設や関連部署と連携して授業や研究活動を実施している。

- ・歴史学科および表現学科「地域活動と社会貢献」前野町・常盤台地域のフィールドワークをもとに地域課題をつかみ解決案と行動計画を発表。区役所の経営改革推進係、都市整備部と連携
- ・歴史学科「歴史調査実習Ⅰ」板橋区立郷土資料館と連携した実習
- ・歴史学科「日本地域史」板橋区公文書館での調査研究
- ・歴史学科「教職概論」板橋区役所・都市農業係と連携した農業体験
- ・歴史学科 教育実習正課報告会 板橋区教育委員会の先生をお招きして開催
- ・表現学科「表現文化調査研究Ⅰ」板橋区は友好都市であるイタリアのボローニャ市との交流により海外の絵本のコレクションを有し「絵本のまち板橋」を謳っている。2019年6月にリニューアルした板橋区立美術館の「イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」をゼミ内の絵本プロジェクトの学生5名が見学し、大学祭ではプロジェクト活動の報告展示を行った。





3) 八潮市との連携事業

八潮市教育委員会主催で2014年度から開催されている「八潮子ども夢大学」に2015年度より参加。八潮市の有志児童が大学を訪れ、学生や教員による体験学習や講義を受ける。2019年度は11月2日に東京キャンパスにて「古写真から見える東京の未来を描いてみよう」というテーマで開催し、児童12名、歴史学科の学生29名が参加。

4) 埼玉県富士見市との連携

富士見市公共施設マネジメント啓発漫画作成事業に表現学科の学生3名が参加。市が抱える問題をフィールドワークで明らかにし、より多くの人に興味を持ってもらえるよう漫画を作成。10ヶ月にわたるプロジェクトで制作物は富士見市のホームページで公開され、各所で配布された。学生へ市長より感謝状が授与された。

(2) 企業、経済団体、NPO団体等との産学官連携事業について

1) 板橋区内の団体・企業等と連携した活動

専任教員およびボランティアセンター等が窓口になり、コーディネートをしている案件が多い。

- ・東京図書館：中学生の職業体験（キャリア教育）への協力。2018年度に続き、板橋区立上板橋第三中学校より依頼があり職業体験の受け入れを実施。生徒3名が3日間の職業体験に参加。
- ・ほほえみの会（板橋区ダウン症児・者親の会）とのスポーツ交流 短期大学部と合同で学内アリーナ（体育館）でのスポーツ交流を年1～3回程度不定期で継続開催



- ・表現学科：「ピース・フェスティバル・“いたばし”」での市民劇への出演



板橋区で活動するピース・スコレ（平和の学校）のイベントで平和をテーマにした市民劇に表現学科の学生がキャストとして出演

- ・表現学科 ボランティアセンターに板橋フォーラムでのイベントの司会の要請があり学生1名が参加



- ・表現学科 ゼミにて板橋区文化・国際交流財団のイベントにスタッフ参加
- ・表現学科 ゼミにて板橋区の劇団銅鑼の公演活動にスタッフ参加
- ・表現学科 ゼミにて志村警察署と連携した企画・制作
- ・表現学科 キリンビバレッジ、オオゼキときわ台店と連携したPBLで、授業、正課外活動、大学祭を横断した取り組みとして2017年度より実施。2019年度は「キリンiMUSEプロジェクト」として有志学生11名が大学祭で近隣住民が参加できる特設コーナーを企画・出展。



2019/11/23-24 キリンiMUSEプロジェクト

PIC・COLLAGE

2) 千葉キャンパスと連携した産学連携・活動

- ・表現学科 CHIBA DREAM Campus 2019（よしもと幕張イオンモール劇場）吉本興行の劇場で学生が企画・出演するお笑いステージ。表現学科の学生6名（2～4年が各2名）が参加。



- ・NTT東日本大学生ラジオCMコンテストに人文学部の有志学生が参加。台本作り、収録まで自身で行い最優秀賞を受賞。Bay FMにて大学のCMが数カ月にわたって流れることとなった。

3) 長野県の復興支援活動

- ・長野県ボランティアツアー（文化財保全）長野市立博物館で行われている文化財保全ボランティアに2020年2月に歴史学科の学生8名、引率教員2名が参加。2019年10月の台風19号で浸水被害を受けた千曲川沿いの被災地域を見学し地域の実態を理解したうえで、長野市立博物館に集められた文化財の水吸い取りやカビ取り作業を行った。

（文責：杉原麻美）



2019年度 淑徳大学（千葉キャンパス）と千葉市との連携事業の整理

2019年7月1日現在

	新規 継続	取組内容	担当課
1	継続	【中央区のまちづくりに関する協働・参画】 中央区におけるまちづくりや地域の課題解決、地域活性化の取り組みにおいて、協働・協創を進める。特に、中央区内の地域運営委員会の活動を支援するため、淑徳大学が有する資源（人的資源、学術研究の成果）を活用しながら、地域・行政・大学の連携を通じた地域マネジメントモデルの構築を進める。	中央区地域振興課 市民自治推進課
2	継続	【パラスポーツ講座・交流会の開催など共生社会の実現に向けた取組み】 今後、共生社会の実現を目指し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、これまでスポーツに親しむ機会の少ない障害者のスポーツへの参加機会の拡大や、互いの理解を深めるために障害のある人もない人もともにスポーツに親しむ機会の創出、競技普及の担い手育成などについて、さらなる連携を図る。	オリンピック・パラリンピック推進課
3	継続	【介護人材の確保・定着の促進】 今後想定される介護人材の不足を補うため、介護ロボットの普及や外国人人材の活用など様々な施策を推進することとしている。そこで、これらの施策についての普及啓発として、淑徳大学の有する介護分野に関する豊かな知見を活用し、大学講師による先進的な取組みに関する講演をはじめ、介護人材の確保・定着に向けた連携を進める。	介護保険管理課
4	継続	【子ども若者市役所受託事業】 当該事業は、平成28年6月に行われた「こども・若者選挙」により、市内の高校生に選ばれた施策であり、こども・若者の意見が市政に反映され、こども・若者が主体的に活動するための組織として、小学生から大学生くらいまでのこども・若者が参加する「こども・若者市役所（CCFC）」の運営を行うことを目的として実施する。	こども企画課
5	新規	【千葉市 文化振興課】 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に際して、千葉市内の拠点（会場となる海浜幕張エリア、千葉市美術館がある千葉駅エリア、淑徳大学がある蘇我エリア）を有機的に結びつけ、回遊性を高め、国内外からの訪問客に、千葉での滞在を楽しんでもらうとともに、淑徳大学や大巖寺が持つ学術資源、文化資源等を公開・開放し、世界に「利他共生の精神」を発信する。	千葉市 文化振興課
6	新規	【千葉市 都市総務課・UR】 千葉市では、市人口のうち約3人に1人が住宅団地に居住しているというデータがあり、しかもそのうち大部分は40～50年前に整備された大規模団地で、施設の老朽化や住民の高齢化が顕著となっている。そこで、現在、そのような住宅団地に若年世代が居住することで、多世代交流を生み出し、活性化に資する取り組みができないかと検討している。そのひとつのアイデアとして、近隣の大学生が団地に居住し、地域活動に参画する中で、若年世代が住みよい環境を創り出すことができないかを検討する。	住宅総務課
7	継続	【看護・介護・福祉分野等における新製品開発の促進】 今後、高齢化の進展に伴い需要が増大することが想定される看護・介護・福祉分野で活用される機器は、ハンドメイドで製品化されるものから、最新のロボット技術を活用し上市されるものまで多様に渡る。地域経済活性化のため、ユーザー目線に立って、この分野に参入しようとする開発メーカーに対し、看護・介護・福祉に総合的な知見を持つ淑徳大学が助言等を行うことで、開発期間の短縮化や、製品の利便性向上を狙い、淑徳大学と市及び財団で連携を進める。	産業支援課
8	継続	【千葉の親子三代夏祭りにおける学生ボランティア】 平成27年度から、学生ボランティアに千葉の親子三代夏祭りの各種イベントの運営を補助してもらっている。 平成30年度からは、夏祭り当日のボランティアだけではなく、企画段階から継続的に夏祭りの運営に参画してもらうことを検討している。	市民自治推進課

	新規 継続	取組内容	担当課
9	継続	<p>【生活困窮世帯等に属する中学2年生及び3年生に対する学習支援】 平成23年度から千葉市教諭OBや学生ボランティアの協力のもとに生活困窮世帯等を対象に、生活困窮者自立支援法に基づき、高校進学に必要な基礎学力をつけること等を目的として無料の学習支援事業を行っている。 同事業の申込者数は、事業開始から大幅に増加しており、また、きめ細かい学習支援を行うためには学生ボランティアによる更なる協力が必要であるため、ボランティアの派遣協力を求める。</p>	保健福祉局保護課
10	継続	<p>【事業所内保育事業又は企業主導型保育の設置、運営】 組織の人材確保やダイバーシティ、ワークライフバランスの推進モデルとして、保育士養成校としての資源を活かし、事業所内保育事業又は企業主導型保育を学内又は隣地に設置していただくとともに、地域枠の設定により待機児童解消を促進していただく。本市からは、事業所内保育事業の設置、運営に助成するとともに、各区において、市民に対して地域枠のあっせん、紹介を行い、事業運営を支援する。</p>	幼保支援課
11	継続	<p>【企業向け研修の開発及び企業への周知方法検討】 平成28年度から市内の中小企業の人材育成を図り、もって市の産業の振興に寄与することを目的として、中小企業者の経営者又はその従業員が業務に必要な技術、技能又は知識の習得を図るために必要な各種研修制度を利用した市内の中小企業者に対し、その経費の一部を補助する「千葉市中小企業研修費補助金事業」を開始した。補助対象となる研修の一つとして、「市内大学が実施する企業を対象とした在職者向け研修」を挙げていることから、企業向けの研修を開発していただき、市内中小企業の利用を促進したい。また、企業への周知方法にも学生のアイデアを活用したい。(チラシのデザイン作成など)</p>	経済企画課 雇用推進室
12	継続	<p>【「緑と水辺の基金」事業における連携】 寄附付自販機の設置・基金パンフレット等広報物の配布など、基金の募金・広報活動において出来る範囲での連携をお願いする。 (「ちょいサポ宣言」「募金箱デコリ隊」)</p>	緑政課
13	継続	<p>【美浜ステイ・プロジェクト事業】 平成28年度に設立した区職員有志と敬愛大学ボランティアサークルIrisによるMMMPPT（みんなで・みはまを・もりあげようプロジェクトチーム）実行委員会を主軸として、地域活性化に関心を持つ地域の団体（学生・企業等）を巻き込みながら、各種イベントを企画立案・実施し、美浜区のブランド力向上を目指しており、本事業への参加をお願いする。 (平成28年度実績) 自主研修グループでの活動として、12月にイルミネーション点灯・アカペラコンサートを開催し、学生にはポスター作成・近隣店舗への協賛金依頼・当日の運営業務等に携わってもらった。 (平成29年度予定) 今年度より予算を確保し正式に事業として立ち上げ。引き続き、地域活性化に関心を持つ地域の団体に様々な形で協力を仰ぎながら、企画を立案・実施していく。 《4月時点実施予定(案)》①浜辺PRイベント（稲毛海浜公園・展示企画と飲食ブース出店・10月下旬～11月上旬）②若者まちづくりワークショップ（区内高校、大学生を対象・地域活性化施策の検討をテーマ・12月頃）③イルミ浜・アカペラコンサート（高洲コミュニティセンター・イルミネーション点灯・11月下旬～12月末）④美浜PR動画（大学生との協働により外国人観光客を対象としたPR動画制作・時期未定）他</p>	美浜区地域振興課
14	継続	<p>【スクールソーシャルワーカーの受け入れ】 SSWの職務について学ぶ場を提供するとともに、本市学校教育を担う育成に当たるため、福祉関係について学ぶ学生のスクールソーシャルワーク実習を、教育支援課及び教育センターや養護教育センターにおいて受け入れている。</p>	教育支援課
15	継続	<p>【養護教育センターが実施するサポート活動への学生ボランティア参加】 大学を通じて、養護教育センターのグループ活動や学校生活サポート事業の学生ボランティアを募集している。 長柄ハッピーキャンプの宿泊体験行事にも学生ボランティアが同行している。</p>	養護教育センター

2019年度 淑徳大学（各キャンパス）と酒々井町との連携事業の整理

2020年7月30日

	新規 継続	取組内容	担当課
1	継続	まちづくり活動の取り組みや町の魅力について、町民や若い目線で新たに情報発信していくことを目的として発行している「広報ニューしすいYong Eyes」の編集委員として、学生が参画している。(H29年度～)	企画財政課 広報公聴班
2	継続	酒々井宿の食の再現（地方創生推進事業） 江戸時代に酒々井宿で出されていた料理「大名御膳」「旗本御膳」を栄養学科4年生と再現する取り組み。町民の郷土料理への理解を深めるとともに新たな地域資源としての情報発信を行う。	企画財政課 企画・地方創生推進室
3	新規	自殺防止対策 ゲートキーパー養成講座 ゲートキーパーを要請し、自殺に向かおうとする人の気持ちにいち早く気がつき、声がけすることで自殺を防ぐことにつなげる。また、町職員が町民と接する際にゲートキーパーとして適切な対応ができるようにする。さらに、職員自身の自殺予防にもつなげる。	酒々井町保健センター
4	新規	酒々井町文化財基本調査「清光寺」予備調査 酒々井町浄土宗亀澤山清光寺は徳川幕府所縁の浄土宗寺院であり、本尊は県指定文化財となっている。しかしながら文献調査をはじめ資料調査を実施していないままであった。令和元年度台風15号により建物に大きな損壊を蒙ったため破却する予定となったため、史資料が散逸する恐れがあり、同寺の史資料について予備調査を行うこととする。	企画財政課 企画・地方創生推進室
5	継続	酒々井・千葉氏まつり 学生のイベント参加。誘客に向けた改善等報告。	企画財政課
6	新規	酒々井町観光実態調査 調査方法については、酒々井町と協議中。	経済環境課 商工観光班

2019年度 淑徳大学（千葉第二キャンパス）と自治体との連携事業の整理

2019年度（2019年4月1日～2020年3月31日）

	新規 継続	取組内容	担当課
1	継続	【沐浴教室の開催】 地域貢献の一環として、妊婦とその家族を対象に2017年1月から沐浴教室を開始し、継続的に月1～2回ペースで開催している。新生児の抱っこや沐浴の方法について説明した後、母性小児実習室で実際に抱っこや沐浴の体験をしていただいている。学生もボランティアとして参加し、2018年度からは母性看護学実習の見学実習の一つに位置付け、学んできた知識や技術を提供しながら参加者と楽しくコミュニケーションを図っている。	千葉市保健福祉局健康部健康支援課千葉市中央保健福祉センター健康課
2	継続	【千葉市食育&消費者教育情報誌「おいしくタベル たのしくマナブ」作成協力】 小児期からの食育は好ましい食習慣の形成や生活習慣病の予防の上でも重要である。千葉市は食育推進のために子どもや保護者を対象とした食育情報誌を作成している。作成には1回目より学生とともに協力し、2019年度は5回目となる。2019年度の情報誌は市内の小学校114校、5年生、6年生に配布された。子ども、小学校へのアンケートの結果では、7割以上から大変良かった・良かったとの回答が得られている。情報誌は子どもを通じて親世代への食育にも貢献しその成果が期待されている。	千葉市保健福祉局健康福祉部健康推進課
3	新規	【酒々井町制施行130周年連携事業】 淑徳大学と酒々井町の連携事業の一端として、栄養学科による「酒々井宿の食の再現」を実施した。栄養学科教員及び学生の希望者が参加し、江戸時代の料理（大名御膳・旗本御膳）の再現を行った。文献の調査、実際の料理の再現、レシピの発表を行った。酒々井町での料理教室や栄養教育講座を含め酒々井町の発展に寄与することが出来た。また、学生の学びの場として有意義な学修となった。	酒々井町役場 総務課

2019年度 淑徳大学（埼玉キャンパス）と自治体との連携事業の整理

2019年度（2019年4月1日～2020年3月31日）

	新規 継続	取組内容	担当課
1	継続	【富士見市子ども大学・子どもスポーツ大学】 子ども大学は、もともと埼玉県の事業。いくつかの市町村と大学・企業・市民団体が実行委員会を作り、企画運営する形式をとったが、調整が難しく、次第に一つの基礎自治体の教育委員会生涯学習課と一つの大学、それに市民有志が加わり実行委員会を作り、企画・運営するようになった。富士見市では、2つの「子ども大学」があり、各年間7回の講義（講演・体験事業）を行い、教育学部の学生が、企画・運営に積極的に参加している。	富士見市教育委員会・生涯学習課
2	継続	【三芳町子ども大学みよし】 子ども大学は、もともと埼玉県の事業。いくつかの市町村と大学・企業・市民団体が実行委員会を作り、企画運営する形式をとったが、調整が難しく、次第に一つの基礎自治体の教育委員会生涯学習課と一つの大学、それに市民有志が加わり実行委員会を作り、企画・運営するようになった。三芳町では年間5回の講義（講演・体験事業）を行い、教育学部の学生が、企画・運営に積極的に参加している。	三芳町教育委員会生涯学習課・中央公民館
3	継続	【みよし祭り】 毎年9月最初の土曜日に開催される4万人規模の市内総出の夏祭り、芸能・パフォーマンス発表大会プラス花火大会。淑徳大学経営学部の学生が「ボランティア研修」の授業の一つのプログラムとして、毎年20名以上が参加。祭り当日だけではなく、事務的な準備段階から祭りの作り込みに参加。当日は、受付、駐輪場誘導、イベント広場司会、ゴミステーション指導等に分散して活動。祭り終了後もゴミ拾い、後片付け、反省会・町への提言まで行っている。	三芳町自治安心課
4	継続	【鶴瀬よさこい祭り】 毎年10月の週末に1日だけ行われている2万人規模の秋のよさこい系の祭りイベント。毎年岩村2年ゼミが、実行委員会に参加し、会議、会場の仕込み・準備、当日の約80チームの各踊り会場での誘導、後片付け、反省会を行う。富士見市から助成金のある事業。	鶴瀬西口商店街連合会・鶴瀬よさこい祭り実行委員会事務局
5	継続	【みずほ台祭り】 毎年8月末の土曜日に行われる4万人規模の祭りイベント、屋台の他、各種パフォーマンスあり。埼玉キャンパスからは、チアリーダーチームや音楽クラブが参加。また「企業経営研究」の授業の一環としてボランティアスタッフとして、あるいは模擬店を出店する学生がいる。	西みずほ台商店会・みずほ台祭り実行委員会
6	継続	【所沢市生涯学習推進センター講座】 国際コミュニケーション学部時代から淑徳大学に講座開校依頼があり、継続している事業。現在年2回、「境の旅行」講座を観光経営学科の教員が行っている。	所沢市生涯学習推進センター
7	新規	【経済センサス基礎調査】 5年に一度の国の経済センサスの基礎調査、富士見市にある全事業所の所在・事業実施活動を事業所の外から確認する調査依頼が淑徳大学にあり、学生調査員を派遣。（単年度事業）	富士見市総務部総務課
8	新規	【公共施設啓発マンガ】 富士見市の公共施設は、老朽化が進むことで、建替や大規模改修等が必要となってくるが見込まれます。さらに、人口減少や人口構造の変化、それに伴う社会保障費の増加への対応など、市の行財政運営は一層厳しくなることが予想されます。市では、公共施設に係る課題を、幅広い世代の方々と共有し、公共施設マネジメントの必要性を理解してもらうため、マンガを取り入れたパンフレットを作成します。（単年度事業）	富士見市管財課
9	継続	【第46回富士見市子どもフェスティバル】 子どもたちが、異なる年齢の子どもたちや地域の大人たちと、遊びなどの体験を通して交流を深める場とするともに、「ふるさと富士見」の意識を高めることをねらいとして開催する。市民主体の実行委員会を組織し進めていく。 【ピースフェスティバル2019】 富士見市非核平和都市宣言の理念に基づき、平和について考える機会として開催する。平和展示、愛と平和のコンサートキッズ&若者ライブ、平和をテーマにした市民演劇、模擬店、昔の遊び体験等 市民主体の実行委員会を組織し、作り上げていく。	富士見市鶴瀬公民館

	新規 継続	取組内容	担当課
10	継続	【子育て支援プログラム】 「子どもわくわくあそび隊」等による舞台演出	富士見市保育課子育て支援センター
11	新規	【三芳町オランダナショナル柔道チームホストタウン事業】 柔道女子オランダチームと淑徳大学女子柔道部の合同合宿・公開練習・広報等の企画運営	三芳町オリンピックアード推進課
12	継続	【東成瀬村立東成瀬小学校教育研究訪問】 学生が東成瀬小のクラスに入り、支援ボランティアをしながら、学力日本一と言われる教育実践から学ぶ。	秋田県東成瀬村立東成瀬小学校
13	継続	【横瀬町・果樹公園芦ヶ久保道の駅連携事業】 経営学部岩村2年・3年ゼミ生が、現地で農家聞き取り調査、登山道踏破調査・登山道落ち葉掃きを行いながら、歩行散策路の改善を横瀬町に提案する。	横瀬町・道の駅果樹公園芦ヶ久保
14	継続	【川越市特別支援教育学生派遣】 川越市特別支援教育学生支援員の依頼を受け、川越市内の各小中学校で障害のある児童生徒に対する支援を行っている。	川越市教育委員会
15	新規	【学生による志賀高原観光振興プロジェクト】 志賀高原観光協会と連携して、志賀高原のスキー場ゲレンデに併設されたレストランを利用した学生によるカフェの運営を実施。	志賀高原観光協会

2019年度 淑徳大学（東京キャンパス）と自治体との連携事業の整理

2019年度（2019年4月1日～2020年3月31日）

	新規 継続	取組内容	担当課
1	継続	【歴史学科：八潮こども夢大学での体験授業の実施】※教職課程と連携 八潮市教育委員会主催で2014年度から開催されている「八潮こども夢大学」に2015年度より参加。八潮市の有志児童が大学を訪れ、学生や教員による体験学習や講義を受ける。2019年度は11月2日に東京キャンパスにて「古写真から見える東京の未来を描いてみよう」というテーマで開催し、児童12名、歴史学科の学生29名が参加した。	埼玉県八潮市 学校教育部 指導課 指導係
2	継続	【学習支援ボランティア】※教職課程と連携 板橋区教育委員会と連携し、板橋区内の小中学校での授業や部活動などの補助を行う。大学内で行われる説明会に出席のうえ、参加希望学生は板橋区教育委員会へ事前登録し、曜日・時間帯などの条件に合う学校で活動する。2019年度は、説明会を4月18日に実施し、板橋区教育委員会の工藤佳朋様と総括主事伊藤聡様より説明をいただいた。歴史学科の教職課程を履修する学生が中心に参加。登録29名（歴史学科27名、表現学科2名）、実施11名（全員歴史学科）。（活動内容は、「ボランティアニュース」Vol.62に掲載）	板橋区教育委員会 板橋区教育センター
3	継続	【認知症サポーター養成講座】※教職課程と連携 板橋区内の認知症の高齢者をサポートする活動を支援する講座を開催。人文学部は、教職課程を履修する学生の「介護等体験」の事前学習を目的として参加。2019年度は12月3日に東京キャンパスにて開催し、講師に若葉ゆめの園デイサービスセンターのセンター長をお迎えした。26名（歴史学科22名、短期大学部健康福祉学3科名、一般1名）の参加があった。（「ボランティアニュース」Vol.62 掲載）	板橋区 おとしより保健福祉センター
4	継続	【歴史学科：正課科目「歴史調査実習Ⅰ」における地域連携】※授業での連携 板橋区立郷土資料館の協力を得て実習を実施。	板橋区立 郷土資料館
5	継続	【歴史学科：教職実習後の教育実習成果報告会】※教職課程と連携 「教育実習成果報告会」（「教育実践演習」、「教育実習事前事後指導」の発表報告会）を開催。板橋区教育委員会の先生をお招きし、歴史学科第2期生が発表し、教育実習を希望する学生が来年度以降の教育実習の事前学習を行う。（開催日は、2019年1月）	板橋区 教育委員会
6	継続	【歴史学科：正課科目「日本地域史」における地域連携】※授業での連携 板橋区板橋宿地域を対象とし地域史研究を行う予定である。板橋区公文書館での調査研究を行うなど、板橋のフィールドワークを行った上で、学生が報告書をまとめ、その成果を教員が『淑徳大学人文学部研究論集』第4号に論文としてまとめる予定である。調査日程の予定は次の通りである。 4月27日（金）板橋宿地域のフィールドワーク、6月1日（金）板橋区公文書館および板橋宿地域のフィールドワーク	板橋区 公文書館
7	継続	【歴史学科：教職科目「教職概論」の正課外における地域連携】※教職課程と連携 赤塚支所・都市農業係並びに板橋区農芸指導員の会と連携して、年間6回、約10名の淑徳大生が農業体験に従事し、貢献している。主な活動は、じゃがいもの種イモづくり、じゃがいも植え、親子じゃがいも収穫体験、大根・人参の種まき、板橋区農業まつりなどである。	板橋区 赤塚支所 都市農業係
8	継続	【歴史学科・表現学科：2年生必修科目「地域活動と社会貢献」における地域連携】※授業での連携 この必修科目は1単位の演習科目である。歴史学科と表現学科に分けて同じ内容で進めている。総合的な学習の時間の指導法に準拠して、学生が主体的・対話的で深い学びを実現するように、グループ制、協働制を取り、導入教材として前野町・常盤台地域を3回「さんぽ」し、地域課題をつかむ。この地域課題を解決するための「行動計画」を発表する。この発表会には板橋区役所経営改革推進係長、土地利用計画係の職員が2名参加し、ご助言をいただいている。	板橋区役所・経営改革推進係、 都市整備部 都市計画課 土地利用計画係

	新規 継続	取組内容	担当課
9	新規	【表現学科：埼玉県富士見市公共施設マネジメント啓発漫画作成事業参加】 ※ゼミでの連携 白寄ゼミの学生3人が参加。市が抱える問題をフィールドワークで明らかにしつつ、より多くの人に興味を持ってもらえるよう漫画を作成した。現地を何度も訪れ、10ヶ月にわたるプロジェクトであった。制作物は、富士見市のホームページで公開され、各所で配布される。2020年度には、冊子も完成予定。学生には市長より感謝状が授与された。	埼玉県 富士見市役所 総合政策部管財課
10	新規	【表現学科：板橋区立美術館でのフィールドワーク】 ※ゼミでの連携 杉原ゼミ内の絵本プロジェクトの学生5名が、2019年6月にリニューアルオープンした板橋区立美術館で開催された「イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」と関連シンポジウムを見学。11月には大学内で絵本ミニセミナーも開催し、その内容とともに大学祭でプロジェクトの研究発表展示を行った。なお、板橋区は友好都市であるイタリアのボローニャ市との交流により海外の貴重な絵本のコレクションを有し、「絵本のまち板橋」をスローガンに掲げている。	板橋区立美術館
11	継続 隔年	【板橋区公開講座】 板橋区と共催により隔年で開催される公開講座で、東京キャンパスでは人文学部開設の2014年度に初めて開催。参加者は区内在住・在勤・在学で全6回すべてに受講できる方が対象で事前応募制。前回開催した2017年度は歴史学科の専任教員が講師を担当した。2019年度の開催は9月24日～11月19日で、「伝える力」というテーマで淑徳大学近隣に在住する板橋区民が延べ510人が受講した。表現学科の専任教員6名（白寄、小川、杉原、田中、野村、星野）が講師を担当した。次回は令和3年度に開催を予定。	板橋区教育委員会事務局 生涯学習課生涯学習推進係
12	継続	【板橋区「MOTENASHI（もてなし）プロジェクト】 板橋区・東京家政大学・淑徳大学の連携事業で、大学生と区職員が一緒に「誰もが住みやすいまち」をワークショップ形式で探求する。有識者の講義を受講、区内企業の見学等、知識・経験を広げ、誰もが住みやすくなるための“楽しそうな取り組み”、“面白そうなイベント”等のアイデアを形にする。8月中の全5回実施。最終日にグループごとのプレゼンテーションを行った。	板橋区総務部 人事課人材育成係
13	新規	【板橋区 サルベージ・パーティ [®] 会場貸し出し】 食品ロスをなくすことを一つの目標としている板橋区資源環境部資源循環推進課が主催の料理教室に4号館調理実習室を提供。 この料理教室は、自宅にある賞味期限間近の食材や活用されない食材を持ち寄り料理、実食をし、工夫により食品ロスをなくすことができることを区民に知ってもらうための取り組みとして開催された。	板橋区資源環境部 資源循環推進課 資源循環協働係

2019年度 自治体以外の地域連携（東京キャンパス：短期大学部単独のものは除く）

2019年度（2019年4月1日～2020年3月31日）

	新規 継続	取組内容	担当課
1	継続	【東京図書館：中学生職業体験】 2018年度に続き、板橋区立上板橋第三中学校より中学生職業体験の依頼があり、職業体験の受け入れを実施。9月6日（金）に2年生3名が来館し事前打ち合わせを行ったうえで、9月18日（水）～9月20日（金）の3日間にわたり男子生徒3名が職業体験に参加。館内巡回、資料装備、納本チェック、書架整理、図書配架などを体験し、最終日には展示、POP作成にも取り組んだ。	板橋区立 上板橋第三中学校
2	継続	【ほほえみの会（板橋区ダウン症児・者親の会）とのスポーツ交流】 体力のある学生と身体を動かし楽しめる機会を希望されていたことから、短期大学部と合同で学内アリーナ（体育館）でのスポーツ交流を年1～3回程度不定期で継続している。	ほほえみの会（板橋区ダウン症児・者親の会）
3	新規	【表現学科：板橋フォーラムでの司会】 板橋区の民間団体「板橋フォーラム実行委員会」が主催する「子ども食堂 状況（調査）報告・提案発表会」（6月15日 板橋区立グリーンカレッジホール）において表現学科の学生1名が司会として参加。	板橋フォーラム実行委員会
4	新規	【表現学科：ピース・フェスティバル・“いたばし”での市民劇への出演】 板橋区で活動するピース・スコール（平和の学校）が主催するイベント「ピース・フェスティバル“いたばし”～パレスチナに学ぶ平和のつくりかた～」（2020年2月17日 成増生涯学習センター：まなぼーと成増）の中の市民劇に表現学科の学生がキャストとして出演。（演目名「新・ナンミン姉妹」パレスチナ難民と原発事故の避難民について重ね合わせた約1時間のオリジナル演劇作品）	ピース・スコール （平和の学校）
5	新規	【表現学科：NTT東日本千葉事業部広報】 NTT東日本大学生ラジオCMコンテストに人文学部の有志学生が参加。台本作り、収録まで自身で行い最優秀賞を受賞。Bay FMにて大学のCMが数カ月にわたって流れることとなった。	NTT東日本-南関東千葉事業部企画部
6	継続	【表現学科：板橋区文化・国際交流団体が主催するイベントでの学生スタッフの参加】 白寄ゼミで2017年度より下記のイベントにおいて、学生がスタッフとして参加。2019年度は以下に参加した。 ・ふれあいステージ 8月3日（土）、4日（日）影アナウンス・動画撮影及び編集 ・フレッシュコンサート 9月8日（日）影アナウンス ・外国人スピーチ大会 2月22日（土）司会・講評・運営→リハーサル実施後、コロナ禍で中止に。	公益財団法人 板橋区文化・国際交流財団
7	継続	【表現学科：志村警察署と連携しての特殊詐欺防止の企画立案】 白寄ゼミで2017年度より参加。2019年度は以下を実施。 ・特殊詐欺防止キャンペーンに向けてのキャラクター・チラシ制作及びキャッチコピー提案 ・キャンペーン時の呼びかけ及び、グッズ配布 高評価を得たキャラクターが板橋区のみならず東京都全域で採用され、学生には署長より感謝状が授与された。	警視庁 志村警察署 防犯係
8	継続	【表現学科：キリンビバレッジおよびオオゼキときわ台店とのPBL】 飲料メーカーおよび地域のスーパーと連携したPBLで、2017年度より授業、正課外活動、大学祭を横断した取り組みとして実施。 2019年度は、プラズマ乳酸菌飲料「iMuse（イミューズ）」をテーマ商材として、表現学科の広告の授業「表現文化研究Ⅰ（視覚表現）」（専任教員：野村）で店頭視察を経て広告PRプランの企画立案を行うとともに、地域連携センターが窓口となり「キリンiMUSEプロジェクト」の参加学生を募集、11月23日、24日の大学祭で広告PRプランの展示と近隣住民が参加できる特設コーナーを出展した。プロジェクトには表現学科の1年生3名、2年生8名が参加し、商材の色のイメージにあわせてパステルシャインアートを楽しめる体験・試飲コーナーを企画し、家族連れをはじめ多くの来場者を集客できた。	キリンビバレッジ 首都圏地区本部 東京支社 オオゼキ ときわ台店

	新規 継続	取組内容	担当課
9	新規	<p>【表現学科：CHIBA DREAM Campus 2019（よしもと幕張イオンモール劇場）千葉キャンパスと共同プロジェクト】</p> <p>吉本興行の劇場で学生が企画・出演するお笑いステージ「CHIBA DREAM Campus 2019」（企画・主催は、コミュニティ政策学部 矢尾板俊平研究室、淑徳大学 教育改革推進事業、ちば産学官連携プラットフォーム）に参加。表現学科の学生6名（2～4年が各2名）が参加し、演劇の専任教員や吉本興業の放送作家による指導を受けてお笑いの舞台を作った。千葉キャンパスとの打合せでは電話会議を活用し、キャンパス間で連携をとりながら開催までの準備を進めた。</p>	吉本興業
10	新規	<p>【表現学科：地域の劇団の公演活動にスタッフとして参加】</p> <p>岡村ゼミの学生が、板橋区の劇団銅鑼の公演活動にスタッフ参加</p>	劇団銅鑼
11	新規	<p>【長野県ボランティアツアー（文化財保全）】</p> <p>長野市立博物館で行われている文化財保全ボランティアに、大学協賛会からの助成を受けて2020年2月に歴史学科の学生8名、引率教員2名が参加。2019年10月の台風19号で浸水被害を受けた千曲川沿いの被災地域を見学し地域の実態を理解したうえで、長野市立博物館に集められた文化財の水吸い取りやカビ取り作業を行った。大規模水害による史料保全の作業は何年にも渡るもので、歴史学科の学生の専門性や学びにもつながる活動であるため、今回の接点づくりをきっかけに継続的な活動も検討。</p>	長野市立博物館

Ⅲ. 受託事業

1. 千葉市子ども若者市役所



「千葉市子ども若者市役所」では、千葉市が取り組んでいる子ども若者の社会参画事業の一環で、若者が自分たち自身の「社会的な影響力」を知り、自らが当事者となり、主体的に地域や社会の課題解決に取り組むことができる仕組みづくりを進めている。

2017年度から開始された本事業は、3年目を迎え、1年間の活動を通じて、延べ291名（10回のワークショップ、2回の夏休み子ども教室、2回のクリスマスカフェ実行委員会、1回のクリスマスカフェの計15回の活動）が参加し、10回のワークショップには、延べ208名（1回平均20.8名）が参加し、これまでの取り組みの中で最も延べ参加者数が多かった。

2019年度は、昨年度に引き続き、「ヨコ」と「タテ」のつながりづくりを意識しながら、活動を行った。「ヨコ」のつながりでは、ちば産学官連携プラットフォームに参画する千葉市内、市原市内にキャンパスを持つ大学・短大の学生同士の「つながり」を生み出すことを進めた。異なる分野を学んでいる同年代の若者が集まり、交流することにより、新たな発見を得るとともに、異なる専門性を組み合わせることで新たな可能性が広がった。

「タテ」のつながりでは、延べ68名の市内に在住・在学する高校生が参加し、大学生・短大生とともに活動を行った。また、2017年度に高校生として参加していた大学生が受験期を経て、本事業に参加してくれたり、2017年度に中学生だった参加者が高校生になって参加してくれたりという活動の継続性も生まれてきた。

2019年度の主要テーマは、「大学等の施設を活用したこどもの居場所づくり」と「産学官連携での千葉市の魅力発信」の2つとした。また、千葉市健全育成課からの要請により「成人年齢の引き下げに伴う成人式の在り方」についての検討を行った。

(1) 大学等の施設を活用した「こどもの居場所づくり」

2019年度の主要テーマである「大学等の施設を活用したこどもの居場所づくり」の取り組みでは、夏休み期間中に2回の「夏休み子ども教室」と「クリスマスカフェ」を開催した。本取り組みは、大学生や短大生、高校生が主体的に「こどもの居場所づくり」の活動を行う上で、継続的に行っていくための方法を検討した。その中で、大学生や短大生、高校生が地域に出るだけではなく、大学や短大、高校の施設を地域に開放することで、授業の空き時間や放課後等を活用して、担当者が交代・輪番をしながら、「こどもの居場所」を提供していくことができれば、継続性が担保されるのではないかと考え、大学等の施設で、どのような活動ができるかを確認するために、「夏休み子ども教室」と「クリスマスカフェ」を開催することとした。

①夏休み子ども教室

夏休みにおける「子ども教室」では、「寺子屋」方式で夏休みの宿題を一緒に取り組むとともに、遊びの時間を入れることで、子どもたちに夏休みの「思い出」づくりにもつながるような取り組みとした。





②クリスマスカフェ

「クリスマスカフェ」は、昨年の経験を踏まえ、課題を分析し、告知方法や当日の運営方法を改善しながら、実施・運営を行った。また、昨年度の運営スタッフと今年度に新たな運営スタッフとなった学生・生徒が融合することで、「経験の継承」を行うことができた。また、事前準備として2回の実行委員会を開催した。





(2) 産学官連携による千葉市の魅力発信

「産学官連携での千葉市の魅力発信」では、千葉県情報サービス産業協会と連携を行いながら、子どもや若者視点から「千葉市の魅力」を伝えることで、千葉市民のアイデンティティの確立、千葉市への訪問客（国内・海外）への情報発信を行っていく仕組みを検討した。

特に、2020年7月から9月までの間、オリンピック・パラリンピック東京2020大会が予定されていることから、その期間に千葉市を訪れる観光客を対象として、どのような千葉市の魅力を伝え、千葉市での滞在を楽しむ機会を創出するかということを検討した。

その方法として、第1に「千葉市子ども若者市役所」のWEBページの活用で、12月のワークショップは、千葉県情報サービス産業協会と連携した「アイデアソン」として、WEBページのデザインを検討した。第2にシェアリングエコノミーサービス（「TABICA」等）を活用した体験ツアーの企画と実施案を検討した。この検討にあたっては、「特別な観光スポット」を紹介するという視点だけではなく、「私の好きな千葉市スポット（I Love千葉市）」の視点で、自分自身の感性に基づく体験ツアーの計画を検討することで、「千葉市のアイデンティティ」の形成につなげることを目指した。

「千葉市の魅力発信」の取り組みは、2019年度内に検討した内容を2020年度に実施することを予定している。





(3) 成人式のあり方に関する検討

千葉県健全育成課からの要請により、成人年齢の18歳への引き下げに伴い、成人式をどのように行うか、成人年齢前後の高校生や大学生、短大生の意見を聞く機会を持った。成人年齢の18歳への引き下げに伴い、成人式の参加年齢も18歳に引き下げた場合、大学受験等の時期に重なってしまう。(例えば、2019年度は「成人の日」が2020年1月13日、大学入試センター試験が2020年1月18日、19日である)。それにより、多くの成人を迎えた若者にとって成人式への参加は困難なものとなる。一方、現状のまま成人式への参加年齢を20歳とした場合、成人年齢を満たしてから2年ほど経過してしまうことになる。そこで、成人式の①実施年齢や実施時期、②実施内容について、グループ討議を行い、各グループから出た意見について、投票を行い、自分たちの意見を決めることになった。

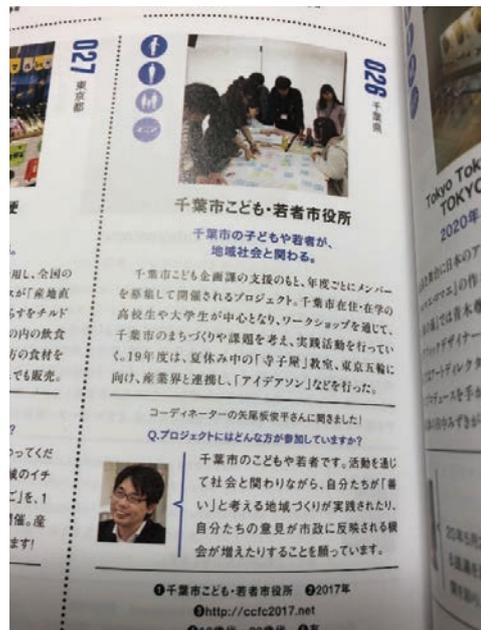
その結果、下記の意見が最も多くの票を獲得した。

①実施年齢：20歳

②内容：千葉県出身の著名人のビデオメッセージがよい（以前出席した際のビデオメッセージは知らない人だった） など

(4) 千葉県子ども若者市役所の「パブリシティ」

ソーシャル&エコマガジン「ソトコト」2020年2月号「参加したくなるローカルプロジェクト」の特集内「全国ローカルプロジェクトカタログ100」に掲載。



2. 笠間市「生涯活躍のまち施策に関する共同研究」

本共同研究では、WEBモニター調査を利用し、東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県の上の男女3,146名を対象に、WEBモニター調査を実施した。

アンケート調査では、単純な質問回答調査だけではなく、WEBモニターをランダムに3つのグループに分け、異なる条件や金額を提示して質問を行うことで、それぞれの条件の妥当性を検証した。その結果、移住に関する人々の選好等を把握することができたとともに、移住に対する課題を明らかにすることができた。また、この調査結果に基づき、首都圏に事業を置く企業関係者との研究会を開催し、意見交換を行った。

3. 一般社団法人全国スーパーマーケット協会「地域密着型スーパーマーケットの新たな競争戦略に関する共同研究」

近年、全国チェーンストアやコンビニエンスストアの進出・展開、ドラッグストアの事業多角化といった事業環境の変化の中で、地域密着型スーパーマーケットが事業を継続していくためには、価格以外の付加価値を顧客に提供していくような新たな競争戦略が求められる。その付加価値とは、例えば、地域内の取引関係（ネットワーク）であったり、地元での雇用の受け皿であったり、または地域社会の課題解決を通じた地域貢献であったりする。また、昨今の経営戦略論では、CSV（Creating Shared Value：共有価値の創造）活動が新たな競争戦略として注目されており、地域密着型スーパーマーケットのCSV活動のモデルを検討することで、地域経済の中で地域密着型スーパーマーケットの成長を支援することができる。一般社団法人全国スーパーマーケット協会と共同で、2019年度から2023年度までの5か年を第1期とし、共同研究を実施することになった。

(1) 地域密着型スーパーマーケット（LSM）の競争戦略に関する分析

全国チェーンストア、コンビニエンスストア、ドラッグストアと地域密着型スーパーマーケット

（LSM）についての経営・財務指標の分析や事例研究を通じ、SWOT分析を行い、地域密着型スーパーマーケットの強みを整理するとともに、地域社会への貢献力がLSMにとって大きな競争力の源泉となり、強みとなることを明らかにし、差別化戦略を通じた競争戦略の方向性について取りまとめる。また、消費者調査（WEBモニター調査）と企業調査（電話調査）を実施し、消費者のニーズを把握するとともに、取引先、地域での雇用率等の指標について、スーパーマーケット事業者に対する電話での聞き取り調査を行うことで、スーパーマーケット業界の現状と課題を整理する。

(2) スーパーマーケット・アワードの創設に関する基礎研究

地域社会への貢献や経営安定性等の指標を検討し、優れた事業活動を展開している地域密着型スーパーマーケットを表彰するために、「スーパーマーケット・アワード（仮称）」を発表し、社会的に発信をしていくことが、会員企業の付加価値の向上につながると考えられる。そのため、2019年度には、アワードの評価指標を検討し、2020年度に第1回目のアワードを発表する。

2019年度は、基礎的研究とWEBモニター調査を実施し、下記の内容について、報告書に取りまとめた。

「スーパーマーケット業界の「現在」とこれからの「戦略」」（執筆：矢尾板俊平センター長）

「小売業の収益性に関する地域傾向」（執筆：松村俊英特別客員研究員）

「千葉市稲毛区での事業活動内容、全国の優良事例の紹介、及び2019年度の研究会での議論内容を踏まえた考察について」（執筆：山本直史客員研究員）

「アンケート調査結果のまとめについて」（執筆：矢尾板俊平センター長）

また、2020年2月のスーパーマーケット・トレードショーにおいて、矢尾板俊平センター長が、研究成果を報告するとともに、その内容を「2020年度スーパーマーケット白書」に寄稿した。

さらに、スーパーマーケット・アワードの創設に向けた企画提案書を1年間の研究会での成果物として取りまとめた。

4. 地方創生促進事業「酒々井宿の食の再現」 事業

「酒々井宿の食の再現（佐倉藩の差入記録から）」

淑徳大学 看護栄養学部 栄養学科

概要

佐倉藩の文書に書き残された料理名から再現を試み、江戸時代の料理であり盛り付けや椀や供膳具も考証した。

①大名御膳 参勤交代で酒々井宿本陣に宿泊した小見川藩主に佐倉藩から差し入れられた重箱入りの料理を再現。

御煮染（七品 一重） 御餅菓子（七品 一重上）

②旗本御膳 江戸幕府野馬預の旗本（小納戸頭取）が酒々井野馬会所に宿泊する際に佐倉藩から差し入れられた料理を再現。

御吸物 御口取（五品） 御煮染（五品） 餅菓子（三品）

再現経過

2018年度 淑徳大学内で文献調査、料理レシピの検討、試作調理と評価会実施等

2019年度 料理の再現・酒々井町での食育の啓発活動、報告書作成

淑徳大学参加者名簿（2018年度 2019年度）

代 表 桑原節子（看護学部栄養学科 学科長）

大名御膳 石井克枝、内堀佳子、雀部沙絵、正木緑、本吉杏奈、山田昌代

旗本御膳 平澤マキ、平岡真美、伊澤華子、大山珠美、桑原節子、堀越美佑紀

学生3年 21名（2019年度4年・卒業研究履修者）



試作会の様子



試作品「大名御膳」「旗本御膳」の一部

◆大名御膳 御煮染◆

鯛小串焼



材料（4人分）

鯛切り身…80g × 4切れ
江戸甘みそ…100g
みりん…72g（大さじ4）
長ねぎ…40g（20cmくらい）
串…8本

作り方

1. 江戸甘みそとみりんを練り合わせる。
2. 鯛は2等分、長ねぎは5cmの長さにぶつ切りにする。
3. 2本の串を使って、鯛と長ねぎを交互に串打ちする。
4. 1を3の両面に塗り、魚焼きグリルで片面5分ずつ焼く。

【この料理について】

身分社会だった江戸時代では魚にも格付けがされており、鯛は最上級のものとされていた。また、姿もよく、味もいい鯛は縁起物として、将軍家や大名家でも盛んに食べられていたようである。

江戸甘みそは関東、特に江戸近辺でよく使用されていた茶褐色のみそで、塩分控えめで麴の甘みを感じられる。徳川家康の出身地である三河「八丁みそ」の旨みと、京都「白みそ」の上品さを兼ね備えたみそとして、江戸中期に開発され、以来、江戸・東京の代表的な味噌として長く庶民に愛好されたとされている。

江戸にも近い酒々井宿で大名に献上されたことから、今回は江戸甘みそを使って作成した。

◆大名御膳 御煮染◆

鶏卵巻き



材料（4人分）

卵…6個

だしみつ

（作りやすい量。冷蔵庫で2か月保存可能）

水…250ml
昆布…7.5g
かつお節…7.5g
砂糖…200g
酒…50g
みりん…50g
酒…12g
濃口醤油…3g

作り方

1. だしみつを作る。材料を全て鍋に入れてアクを取りながら弱火で1時間程煮詰める。トロリとしてきたら火からおろす。
2. 卵を溶き、だしみつ大さじ2½と合わせる
3. 厚焼き卵を作る。
4. アルミホイルに巻いて形を整える。冷めたら食べやすい大きさに切り分ける。

【この料理について】

江戸末期に書かれた類書（百科事典）、『守貞謄稿（もりさだまんこう）』によれば、かけそばが一杯十六文の時代に、卵の水煮（ゆで卵）が一個二十文で売られていた、という記述がある。当時、卵は高級食材であったようだ。

「卵百珍（たまごひゃくちん）」とは、天明5年

(1785年)に出版された『万宝料理秘密箱(まんぼうりょうりひみつばこ)』という料理本の中にある「卵之部(たまごのぶ)」にある、めずらしい卵料理の記載部分のことである。当時より卵を使った料理が作られていたことが窺える。

他の御煮染料理が塩気の強いものが多いことから、鶏卵巻きはやや甘めの味付けとした。

◆大名御膳 御煮染◆

金椎たけ



材料(4人分)

干し椎茸…約50g(8個)
砂糖…18g
醤油…36g
酒…30g

作り方

1. 干し椎茸を水で戻す。戻し汁はとっておく。
2. 軸を切り落とし、下茹でする。
3. 2を、戻し汁に酒・砂糖・醤油それぞれの重量1/4程度を加えて煮る。
4. 煮立ったらいったん冷まし、改めて煮返す。これを3~4回繰り返す。煮返すたびに残りの調味料を少しずつ加え、ちょうど良い濃さになるように味を調整する。

【この料理について】

江戸の初期は椎茸が高級品だったと考えられる。

椎茸については蝸川新右衛門(にながわしんえもん)が書いた日記に、1465年、伊豆の円城寺から、室町幕府の八代将軍・足利義政に干し椎茸が献上された

ことが記されている。また、豊臣秀吉の好物であったことから、椎茸は上層階級でしか食べることができず、江戸時代に椎茸の栽培が始まって以降、やっと庶民にも手が届く食材になったようである。

江戸時代中期以降、関東の常陸・下総・上総・相模などで濃口醤油づくりが盛んになり大きく発展し、味も江戸の人々の嗜好に合わせて、今日の濃口醤油に近いものが生産されるようになった。

◆大名御膳 御煮染◆

篠れんこん



材料(4人分)

れんこん…320g
にんじん…45g
だし汁…500g(かつお節10g、昆布7g)
砂糖…14g
醤油…20g
酒…30g

作り方

1. れんこんは皮をむき、縦に4等分したら横に置き、食べやすい長さに切る。にんじんは皮をむき、厚さ1cm程度の輪切りにしてから花形にする。
2. にんじんをだし汁で火が通るまで煮る。
3. れんこんとだし汁を中火にかけ、沸騰したら弱火で5分煮る。
4. 3に砂糖と酒を加え、5分煮たら醤油を加え、さらに10分煮る。
5. 2のにんじんを加え、味をしみ込ませる。

【この料理について】

「篠」はイネ科タケ亜科の植物のうち小形のものの総称である。背の低い竹のことだと解釈し、れんこんを竹のように縦に切った。味付けは現代の料理を参考とした。

熊本の代表的な郷土料理であるからし蓮根は、鶴屋百貨店の先祖平五郎が病弱であった藩主・細川忠利へ健康食として献上された、ともいわれており、れんこんは健康食として伝わっていたのかもしれない。

◆大名御膳 御煮染◆

二色ぎせい豆腐



材料（4人分）

木綿豆腐…300g

卵…80g

サラダ油…適量

きくらげ（乾燥）…2g

いんげん…20g

にんじん…20g

砂糖…4g

みりん…20g

濃口醤油…20g

たれ（事前に合わせておく）

濃口醤油…6g（小さじ1）

砂糖…3g（小さじ1）

みりん…6g（小さじ1）

作り方

1. 豆腐を10分茹でたらキッチンペーパーやさらして包み、重しをして水を切る（約20分）。

2. 水で戻したきくらげ、いんげん、にんじんをみじん切りにする。サラダ油をひいたフライパンで炒め、火が通ったら粗熱を取る。
3. 水気が取れた豆腐を、すり鉢で滑らかになるまですりつぶす。
4. 3に溶いた卵、2、調味料を入れ、混ぜ合わせる。

焼き方①〈卵焼き器のみ〉

5. 卵焼き器に、少し多めのサラダ油をひき、4を流し入れる。アルミホイルをかぶせ、弱火で5～7分、裏返して中火で3～4分焼く。
6. 両面にたれを塗り、食べやすい大きさに切る。

焼き方②〈卵焼き器と蒸し器〉よりふんわりとした仕上がりになります。

5. 流し缶（約7cm×約15cm程度）に4を入れ、蒸し器で約7分間蒸す。
6. 生地から少し水分が出てきたら取り出し、多めの油を引いた卵焼き器に移す。アルミホイルをかぶせて弱火4～5分、裏返して弱火2～3分焼く。
7. 両面にたれを塗り、食べやすい大きさに切る。

【この料理について】

一度崩した豆腐を元の形に似せて作ることが料理名の由来である。作り方は2種類の文献から見つけられた。

「江戸料理辞典（新装版）」によると『豆腐を崩して水気をしぼり、調味を炒りつけて、四角の型に入れて押し蓋をする。余分な汁を取ってから固め、四角に切り、焼鍋で焼く』と記載されている。

江戸時代の料理書「料理早指南 初編」によると『豆腐を崩して水気を絞る。酒、濃口醤油でよく炒る。切溜（料理の材料などを入れる木箱）の蓋に盛り上がるくらい入れる。押し蓋をして逆圧にかけて、煮汁をしぼる。一寸あまりに切り、焼鍋で片面焼く。』と記載されている。

当時は、豆腐に調味料だけで作っていたようだが、現在の擬製豆腐は、豆腐に野菜やひき肉などが入った、ボリュームのあるものが好まれているようである。また、豆腐に卵を加えて作る場合もある。

今回は「江戸料理辞典（新装版）」の作り方に、現代風のアレンジを加えたものを作成した。

◆大名御膳 御煮染◆

角くわい



材料（4人分）

くわい（冷凍）…160g（8個）
 クチナシ…1/2個
 だし汁…300ml（昆布6g、かつお節6g）
 砂糖…9.6g（材料重量の6%）
 みりん…9.6g（材料重量の6%）
 塩…2.4g（材料重量の1.5%）

作り方

1. くわいを六方剥きの要領で皮を剥く。芽を落とさないよう注意する。
2. 鍋にくわいと浸かる程度の水（分量外）を入れ沸騰させる。クチナシを入れ約20分下茹でし、色づいたら軽く水洗いをする。
3. くわいを、くわいが浸るくらいのだし汁、砂糖、かつお節、塩で中火にかけて約10分煮る。

【この料理について】

くわいは現代でも「芽が出る」、つまり出世を願う縁起物としてお正月料理に使われていますが、その他にも子球がたくさんつくことから子孫繁栄の縁起物ということもあり、大名への献上料理の一品として取り入れられたと考えられる。

日本へは平安初期に中国から伝わり、食用として食べられるようになったのは、江戸時代になってからといわれている。

◆大名御膳 御煮染◆

鮑ふくら煮



材料（4人分）

あわび（生）…4個
 だし汁…1L（昆布15g）
 濃口醤油…100ml
 酒…100ml
 みりん…100ml
 砂糖…50g

作り方

1. あわびに塩をふってこすり、汚れをとったあと水洗いする。
2. あわびを鍋に並べ、だし汁、濃口醤油、酒、みりん、砂糖を加え強火にかける。沸騰したら弱火にして15分煮た後、そのまま汁ごと冷ます。
3. 冷めたらあわびを取り出し、身から肝と赤い「くちばし」部分をきりおとしたら、7～8等分（5mm幅）ほどに切り、盛りつける。

【この料理について】

江戸時代でも、あわびは贅沢な食べ物として珍重されていたため、大名への献上料理として取り入れられたと考えられる。日本の重要な交易品でもあり、中国へ干しあわびがたくさん輸出されていた。

猫を描いた江戸時代の浮世絵には、あわびの貝殻が頻繁に登場する。江戸時代、あわびの貝殻は猫用の食器として使用されていたと思われる。

◆大名御膳 一重上御餅菓子◆

しらかこ餅



材料（4人分）

上新粉…35g
 白玉粉…35g
 砂糖…7g
 片栗粉…14g
 こしあん…120g
 水…80ml
 竹の葉…4枚

作り方

1. こしあんを8等分にして俵型に丸める。
2. 上新粉と白玉粉、砂糖に水を加えて粉っぽさがなくなるまでこねる。
3. 絞ったさらしを、蒸し器に敷き、1の餅を厚みが均等になるように載せて3分間蒸す。
4. 3の餅を取り出し、水（分量外）を少しずつ加えながら柔らかくなるまでこねる。
5. 8等分に分け、中心は厚めに、端は薄くなるように麺棒などで伸ばしていく。
6. 中心に1のこしあんをのせ、餅が均等な厚さになるように包む。包んだ餅はくっつかないように薄く片栗粉をまぶす。
7. 竹の葉で2個ずつ包む。

【この料理について】

しんこ餅は、うるち米から作られた餅で、千葉県をはじめ様々な地域で食べられている伝統郷土食の1つである。江戸時代末期に活躍した農民指導者・大原幽学が考案した。

千葉県は古くから稲作が行われてきた全国有数の米どころであり、うるち米を蒸したものを使って餅を作る。この製法は特に、香取・海匝地域の米農家を中心に広まり、今に伝えられる。うるち米で作られたしんこ餅は、もち米でついた餅のような伸び方はせず、歯切れがいいのが特徴であり、韓国のトッポギやトックに似ている。

山形県鮭川村でもしんこ餅が伝わっているが、こちらはもち米を使用したものである。今回は調理の行いやすさを考慮して、鮭川村のしんこ餅を参考に作成した。

◆大名御膳 一重上御餅菓子◆

もくめこん



材料（4人分）

☆こしあん…200g
 ☆小麦粉…20g
 ☆片栗粉…13g
 ☆水…40ml
 ★白あん…40g
 ★小麦粉…4g
 ★片栗粉…2g
 ★水…10ml

作り方

1. ☆と★をそれぞれ別に混ぜ合わせる。
2. 流し缶などに☆（こしあん）の生地を流した後、★（白あん）の生地を線状に引き、竹串で模様を付ける。
3. そのまま蒸し器に入れ、強火で30分間蒸す。

【この料理について】

羊羹は、中国では古くから食べられ、日本へは鎌倉時代末ごろに伝来した。室町中期以降には本膳料理や仏事の料理、茶会の菓子として用いられるようになった。江戸時代に入ると料理書の多くに羊羹の製法を見ることができる。いずれも砂糖入りのあんに小麦粉やくず粉を加えて蒸した蒸羊羹で、寒天を用いた練羊羹は1841年に初めて登場した。

現代でも小豆あん和白あんの木目模様がつけた木目羹（きもくかん）という羊羹が作られており、言葉の響きからもくめこんに近いものではないかと考え、作成の際に参考とした。

◆大名御膳 一重上御餅菓子◆

近とん



材料（4人分）

栗（甘露煮）…170g
甘露煮の汁…適量

作り方

1. 栗をマッシャーでよくつぶし、甘露煮の汁を少しずつ加えながら、あんの状態にする。
2. 4等分にし、ラップなどで包んで茶巾絞りにする。

【この料理について】

きんとんは元々、餡を餅や求肥などで包んだものを指しており、砂糖が高価なものだったことからごく一部の upper class の人間しか食べられないものだった。しかし栗は山里に自生していたので、庶民は旬の時期に

は日常的に蒸したり焼いたりして食べていた。江戸時代中期以降、砂糖が庶民にも手に入りやすくなると、保存の目的も含めて加熱した栗に砂糖を混ぜるようになった。これを菓子職人が布巾などで絞って菓子としたものがきんとんの呼ばれるようになったと言われていたことから、作成の際に参考とした。

今でも正月のおせち料理に欠かせないきんとんは、甘く煮た栗やインゲン豆を、サツマイモや長芋のあんと混ぜたものであるが、この現在のようなきんとんが作られるようになったのは明治以降ということである。

◆大名御膳 一重上御餅菓子◆

薄ミすし



材料（4人分）

白玉粉…20g
砂糖…35g
水…40ml
片栗粉…適量
マーマレード…8g
オレンジピール…4g
凍り餅…4g

作り方

1. 耐熱ボウルに白玉粉を入れ、水の半量を加えて混ぜる。よく混ぜたら残りの水を加える。
2. 砂糖を加えてよくこね、レンジに600w20秒かける。
3. こねたらさらに1分加熱する。これをコシと透明感が出るまで繰り返して求肥を作る。

4. 片栗粉を敷いたバットに求肥を取り出し、上から薄く片栗粉をまぶす。
5. オレンジピールを細かく刻み、マーマレードと混ぜておく。
6. 4の求肥が冷めたら4等分して丸く伸ばし、5を包む。丸く形を整え、凍り餅を削ったものを上からまぶす。

【この料理について】

和菓子の老舗である虎屋が所蔵している江戸時代の製法書に「鯨饅頭」なるものがある。木箱などに粉か砂糖を満たし、その中に求肥を入れてまぶしたのではないかと想像されている。今では求肥で餡を包み、和三盆糖をまぶしたものを「千歳鯨」という商品名で販売している。

他の文献では「すし」または「鯨」のついた和菓子が見当たらなかったこともあり、鯨饅頭を参考にして薄ミすしを作成した。

凍り餅（氷餅）とは、凍結・融解を繰り返して餅を乾燥させた、長野県の伝統郷土食である。そのまま食してもよし、戻して通常の餅として食してもよしと、様々な食べ方がある。

今回は他の餅菓子があんを使ったものばかりだったので、薄ミすしは甘さを控えめに作成することとしたため、砂糖をまぶすのではなく凍り餅を削ったものをまぶした。

◆大名御膳 一重上御餅菓子◆

上梅雪



材料（4人分）

- 砂糖…40g
- 白玉粉…20g
- 水…40ml
- 片栗粉…適量
- こしあん…40g
- 白漉し餡…80g
- 食用色素（赤）…微量
- 食用色素（黄）…微量

作り方

練り切り

1. 耐熱ボウルに白玉粉を入れ、水の半量を加えて混ぜる。よく混ぜたら残りの水を加える。
2. 砂糖を加えてよくこね、電子レンジ（600w）で20秒加熱する。
3. こねたらさらに1分加熱する。これをコシと透明感が出るまで繰り返して求肥を作る。
4. 片栗粉を敷いたバットに求肥を取り出し、上から薄く片栗粉をまぶす。
5. 白漉し餡を耐熱ボウルに入れてキッチンペーパーをかぶせ、レンジ（600w）で2分加熱する。
6. 5を平らな場所で全体をよく練ったら再度レンジ（600w）1分～1分30秒加熱する。この作業を粉吹き芋程度の固さになるまで繰り返す。
7. 4の求肥と6の白漉し餡の重さを、求肥：餡＝1：10（8g：80g）に量り取り、よく混ぜ合わせる。この時どちらも熱いうちに、さらに求肥は柔らかい状態で混ぜる。
8. 7をひとまとめにして、固く絞った濡れ布巾の上になさくちぎって粗熱を取る。乾燥しないよう、すぐに再度ひとまとめにして生地をよく揉んでなじませる。この作業を2、3回繰り返す。

生菓子の成型

1. こしあんを4等分して餡玉を作る。
2. 練りきり生地を少量取り分ける。食用色素（黄）で染め、目の細かいザル状のもので裏ごしし、そぼろ状にする。
3. 残りを2等分し、片方を食用色素（赤）で淡い赤色に染める。それぞれをさらに2等分する（全部で4等分になる）。
4. 3の練り切り生地で1の餡玉を包む。

5. 4に、ヘラなどで5本、放射線状の筋を入れたら中心を少しくぼませる。
6. 2を先の細い箸などで5のくぼみに植え付けるように載せる。

【この料理について】

和菓子の歴史は古く、奈良時代にまで遡るが現在のような和菓子の原型が出来上がったのは江戸時代中期以降、それまで高価で薬として扱われていた砂糖が広く庶民の手にも入りやすくなってからのことである。砂糖を使用した餡が発明されると、これを餅や求肥などで包んだ和菓子が作られるようになった。以降、職人が腕を磨き、和菓子で季節を表すような芸術性を高めていった。このような和菓子は現在では上生菓子とも呼ばれ、茶席などでは最高のもてなしとして供されている。

上梅雪は名前に「梅」が入っていることから、餡で包んだ練りきり生地で梅の花を表したものではないかと考えられる。

◆大名御膳 一重上御餅菓子◆

冬こもり



材料（天板30cm×30cm）
 12人分（24切れ）2本分
 卵…240g（4個）
 砂糖…120g（卵重量の60%）
 薄力粉…100g（卵重量の40%）
 サラダ油…30g
 つぶあん…400g

作り方

1. 別立て法でスポンジケーキを作る。卵白と卵黄を分ける。卵白をハンドミキサーで泡の先が立つまで泡立てながら、砂糖を3回ぐらいに分けて加えよく合わせる。
2. 1に卵黄を加え、さらに混ぜ合わせたら、サラダ油を加えてよく合わせる。
3. ふるった薄力粉を加え、ヘラなどでさっくり混ぜる。
4. 天板にクッキングシートを隙間なく敷き、3の生地を流し入れ、軽く気泡を抜いてから180℃に予熱したオーブンに入れて12分焼く。
5. つぶあんを2等分し、ラップにのせて入れ細く巻く。これを2本作る。
6. 4が焼きあがったら半分に切り分ける。片方の生地をクッキングシートの上におき、5のつぶあんを芯にして太巻きの要領で1回巻く。クッキングシートごと包み、両端を輪ゴムでとめてしばらく落ち着かせる。
7. 落ち着いたら両端を落とし、幅3cm程度に切り分ける。

【この料理について】

酒々井町から提供された資料に、冬こもりはつぶあんをカステラ風の生地で巻いた菓子と記載されていた。また、現代でも四国の銘菓、一六タルトのようにこれに近い菓子が各地で製造されており、今回の作成にあたって参考にした。調理を行いやすいよう、生地をカステラ風ではなくスポンジケーキ風に変更した。

◆大名御膳 一重上御餅菓子◆

とう餅



材料（4人分）**【生地】**

- もち粉…52g
- 砂糖…12g
- 水…35ml
- こしあん…52g
- いり白ごま…12g
- ごま油…適量（揚げ油）
- もち粉…4g（打ち粉：片栗粉でも可）

作り方

1. こしあんを4等分し、直径2cmくらいの大きさになるように丸めておく。
2. 生地を作る。砂糖を水で溶かし、少しずつもち粉に加えながらよくこねる。生地につやが出て来たら4等分して丸める。
 - ①打ち粉が必要でない場合
均一の厚さになるように手で生地を伸ばす。こしあんが包めるくらいに伸ばしたらこしあんを生地の中心に置き、包んで形を整える。
 - ②打ち粉が必要な固さの場合
まな板と綿棒に打ち粉（1g/個）を振り擦り込む。生地をまな板に置き、麺棒で伸ばしたら裏返してまた伸ばす。生地を直径7～8cmに伸ばしたらこしあんを中心に置き、包んで形を整える。
3. いり白ごまを小さめのボウルに入れておく。2の団子の表面全体にさっと水（分量外）にくぐらせたら、いり白ごまの入ったボウルに入れて、表面全体に均等に付ける（ボウルを揺らして付けたらごまが付きやすい）。
4. ごま油を150～160℃に熱して3を揚げる。団子が浮き始めたらトングで一度軽くはさんで空気を抜く。7～8分揚げる。
5. 油の温度を180℃に上げて1分ほど揚げる。

【この料理について】

酒々井町から提供された資料では、とう餅はこしあんに米の粉の生地を巻き、胡麻油で揚げた菓子という記載があった。また、中華料理で見られるゴマ団子のことを「とう（唐）餅」ともいう。その為、今回はゴマ団子の作り方を参考に作成した。

◆旗本御膳 御吸物◆**赤味噌 色紙鯛 同花子 紅山柀****材料（4人分）**

- 鯛（3枚おろし皮付き）…120g
- たらこ塩蔵…60g
- 赤味噌…13g
- だし汁
 - 水…320ml
 - こんぶ…3g
 - かつお節…6g
- 酒…6g
- 木の芽…少々

作り方

1. たらこを氷水に15分つけ、塩抜きをする。
2. 昆布とかつお節でだしをとる。
3. 鯛は骨を取ってから1切れ15gの色紙に切り、グリルで約7分焼く。
4. 塩抜きしたたらこの水気を切る。一口大に切り、沸騰したお湯でさっとゆで、花びらが咲いているような状態にする。
5. 1のだしに味噌、酒を加え、一煮立ちさせる。
6. 碗に鯛、たらこを盛り、温めた汁を注ぐ。供食時に木の芽を添える。

【この料理について】

魚の卵巣を花が咲いたようにみせる調理法があることから、同花子は鯛の卵巣と考えられる。調理には鱈の卵巣を用いた。紅山柀については、赤色の山椒である花椒を使用。木の芽での代用も可。

◆旗本御膳 御口取◆

鯛色付焼 紅せうが



材料（4人分）

鯛（切り身）…4切（1切れ60g）

たれ

醤油…大さじ2（30g）

みりん…大さじ2（30g）

砂糖…小さじ1（3g）

だし…大さじ2（30ml）

塩（ふり塩用）…小さじ1/2

はじかみ生姜

作り方

1. 鯛にふり塩をし、10分おく。水洗い後水分をペーパーでふき取る。
2. 骨抜きを行う。
3. 片づま折りでくし打ちをする。
4. フライパンに水をはり、その上にクッキングシートを敷く。皮目を上にして鯛を置く。
5. 5～10分ほど蒸し焼きした後、水をすてたフライパンにたれを加えて、煮崩れや焦がさないよう鍋をまわしながら照り焼きにする。
6. くしを抜いて盛り付け、はじかみ生姜を添える。

【この料理について】

鯛は江戸の十大魚に入っており、そのほか鱒（あじ）、鱈（きす）、はぜ、鱈（すずき）などがある。鯛は常に魚の上位にあることから「大位」をあて、将軍、大名も盛んに食していた。種類が多く、旬が長い。色付焼は、魚、豆腐、茸などを下焼きしてから、醤油に酒等を合わせたものを塗りながら焼きあげるものである。鯛色付焼のレシピは「鯛の木の芽焼」を参考に作成した。

紅せうがについては、翻刻江戸時代料理本集成 第十巻に紅生姜の伝として以下のような記載がある。「もやし生姜はゆでたざりたる中へ入酢と塩と二色合わせて塩梅致し、右の酢の中へ入しばらく置けば紅出る也 又新しやうがはもやし生姜より湯の中へしばらく入り使用同断」。この旗本料理は差し入れ料理であること、鯛の色付焼があることから、紅せうがをはじかみと推測した。

◆旗本御膳 御口取◆

きまかまぼこ



材料（4人分）

白身魚のすり身（市販）…約250g

ゆでたまご（卵黄）…75g

作り方

1. 卵黄をだまにならないようによくつぶす。
2. 白身魚のすり身を混ぜ、すり鉢でよくする。
3. 油（分量外）を塗ったラップでサラミ状にしっかりと包む。ラップを2重に巻く。
4. 蒸し器で約15分蒸す。蒸し器で少し寝かせてから取出して、粗熱が取れてから切る。

【この料理について】

卵を使用したかまぼことして、江戸料理レシピデータセットに「卵山吹蒲鉾」と「卵の黄身の蒲鉾」がある。「卵山吹蒲鉾」は、板付けの蒲鉾にするものだが、実際の調理、提供を考えて「卵の黄身の蒲鉾」で示されたラップで巻く方法を採用した。

かまぼこの原料魚は、室町時代は鯰が筆頭であったが、江戸時代になるとはも、鯛、甘鯛、かれい、ほら、すずき、イカなどが用いられている。

◆旗本御膳 御口取◆

かさまつたけ (変更: 椎茸の笠揚げ)



材料 (4人分)

生椎茸…小8枚 (約100g)

海老進上

海老…8尾 (約120g)

卵黄…1個

サラダ油…大さじ3

玉ねぎ…1/2個 (約60g)

塩…小さじ1/2

小麦粉…適量

揚げ油

作り方

1. 海老は下処理する。
2. 玉ねぎをみじん切りにし、水にさらしておく。
3. 卵黄を泡立て器で泡立て、少しずつサラダ油を加えて乳化させる。
4. フードプロセッサーに下処理をした海老と塩を入れてよく混ぜる。さらに水気をきった玉ねぎと3を加えてよく混ぜる。
5. 椎茸の軸を取り、笠の裏側にはけで小麦粉をつける。
6. 4の海老進上を山盛りに詰め (小20g)、もう一度小麦粉をつける。
7. 160℃の油で揚げ、約2分たったら返し、海老進上がきつね色になるまで揚げる。

【この料理について】

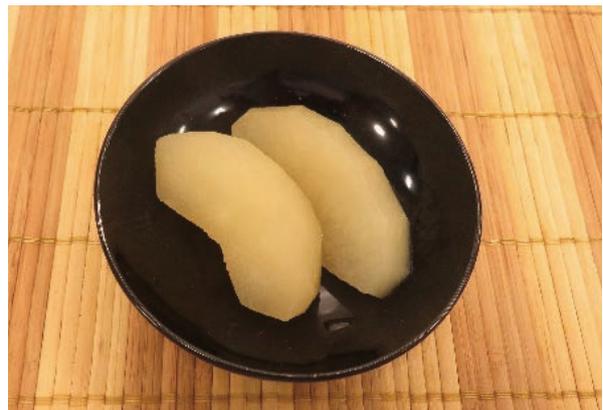
江戸時代の松茸料理としては、焼松茸、煎り松茸、松茸汁、松茸の吸物、松茸の田楽、蒸し松茸などがある。また、出荷量が多かったためか、漬け松茸 (塩水

に漬けるもの) など保存法の記載もある。なお、松茸の土瓶蒸しは明治以降のものらしく、江戸時代料理書には見当たらない。

まつたけの旬や価格などを考慮して、きのこを使用した料理の中から「椎茸の笠揚げ」を制作した。

◆旗本御膳 御口取◆

ありのみ月煮



材料 (4人分)

りんご…1個

みりん…1カップ

砂糖…大さじ1

レモン汁…大さじ2

作り方

1. りんごの皮をむき、芯を取り8等分に切る。
2. 鍋にりんごとみりん、砂糖を入れて、落とし蓋をして中火から弱火で約30分加熱する。
3. 粗熱をとり、レモン汁を加える。

【この料理について】

ありのみは、三省堂大辞林によると、梨の実とある。音が「無し」に通ずるのを嫌って、対義の「有り」を用いた語とされる。

江戸時代は、果物を嗜好品として生産規制していたこともあり、庶民の口になかなか入らない贅沢品で、当時からりんごや梨などは生産されていたが甘味が少ないかたいものが多かった。その果物の味を高めるために、甘く煮て食べたとされている。

そこで梨を月に見立てたシロップ煮であると推測し

た。梨の匂ではなく入手できないことからりんごに変更し作成した。

◆旗本御膳 御煮染◆

もくめ鮑



材料（4人分）

アワビ…4個
 醤油…大さじ2
 酒……大さじ2
 砂糖…大さじ1

作り方

1. アワビに少量の塩をすり込み、良くもみ洗う。たわしを使用して中まで十分に洗う。
2. スプーンを使って身を取り出す。
3. 肝と口の部分は切り落とし、表面に包丁で木目になるように切込みを入れる。縦に深めに切込みを入れるとよい。
4. 鍋にアワビを入れ、アワビが浸かるくらい水を加える。
5. 火にかけて沸騰したら、醤油、酒、砂糖を加え、落し蓋をして弱火で煮る。煮汁が少なくなってきたらひっくり返し、煮汁がなくなるまで煮詰める（2時間程）。
6. 器に盛り付ける（貝殻にのせるのもよい）。

【この料理について】

室町後期の「四条流包丁書」には鮑の黒煮も記載されている。鮑を醤油で煮しめたものをさすが江戸時代初期の出典では味噌で煮ている。醤油の普及以前は味

噌で煮たものと推察される。

時期によっては、生鮮品と乾物の両方の使用が考えられるが、今回は生を使用したレシピである。

◆旗本御膳 御煮染◆

しの巻きす



材料（4人分）

木綿豆腐…300g
 甘酒（濃縮タイプ）…大さじ1
 煮汁
 砂糖…大さじ2
 塩…小さじ1（6g）
 かつおこんぶだし…カップ2（400ml）

作り方

1. 豆腐を水切りする。
2. すり鉢で豆腐をすり、甘酒を加え混ぜる。
3. 巻きすで巻いて形を整え、巻きすのまま10分間蒸す。
4. 蒸した豆腐を4cmに切り、沸騰させた煮汁に入れて、弱火で10分煮込む。
5. 煮汁につけたまま粗熱をとり、煮汁を含ませる。

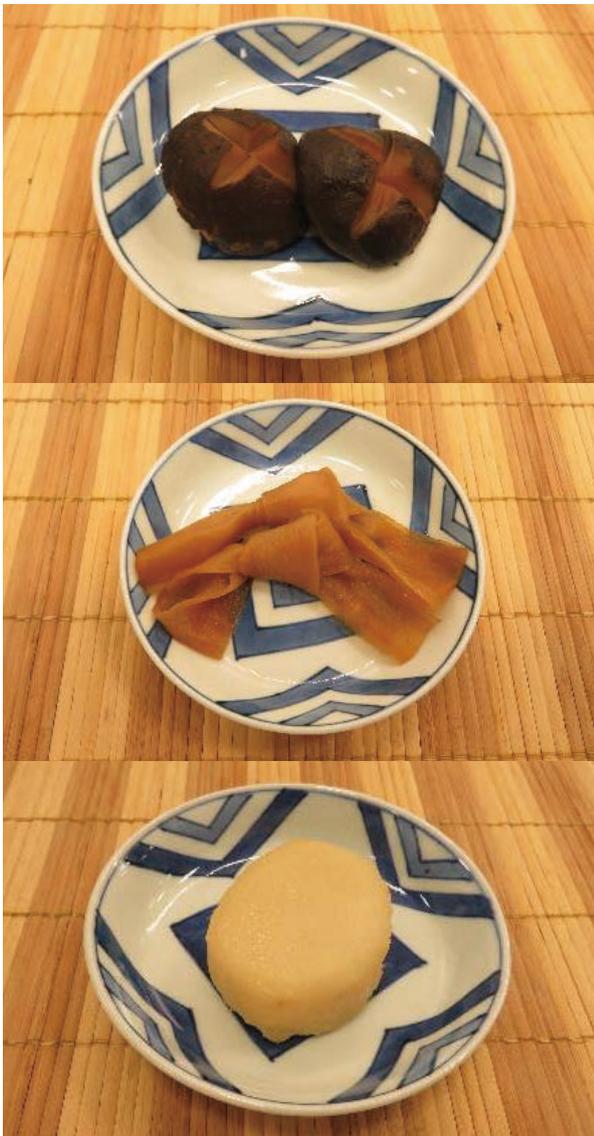
【この料理について】

豆腐は菜の主役に活用されたとされ、町内には必ず豆腐屋があったとの記載がある。江戸時代には300種以上の料理法が知られ、親しまれており、「豆腐百珍」といった本も発刊されている。

この料理は豆腐百珍の手軽料理に記載されている「苞とうふ」を参考とした。

◆旗本御膳 御煮染◆

しいたけ、かんぴょう、長いも



材料（4人分）

干しいたけ…10個

煮汁A

だし（干しいたけの戻し汁）…300ml

砂糖…大さじ1

みりん…大さじ1

醤油…大さじ1

かんぴょう…15g

煮汁B

かつおこんぶだし…300ml

砂糖…大さじ1

みりん…大さじ1

醤油…大さじ1

長いも…1本（太さ皮付き6cm）

煮汁C

かつおこんぶだし…2カップ（400ml）

砂糖…大さじ2

塩…2.4g

作り方

1. かんぴょうを水洗いし、塩を振りかけ（小さじ1）、もみ洗いする。
2. 塩を流し、水気をしぼり、たっぷりのお湯で5分煮る。
3. かんぴょうを二つ折りにして、20cmの長さになるように切り千代結びにする。
4. 戻した干しいたけはさっと水洗いし、石づきを切る。しいたけのかさにかざり切りをする。
5. 皮をむいた長いもを2.5cmの厚さに切り、面取りする。
6. 椎茸は煮汁A、かんぴょうは煮汁B、長いもは煮汁Cで、落とし蓋をして煮汁が無くなるまで弱火で煮る。

【この料理について】

煮染とは野菜、肉、魚などを形を崩さず煮汁の残らないように煮上げる煮物。醤油、酒を加えからめに久しく煮染て後、砂糖を振り置けばじょうゆもとらず、かび損せずとある。

武士の宿直（とのい）弁当として用意された料理には酒も許され、長いもの煮染などが盛り込まれている。

◆旗本御膳 御煮染◆

はふたい餅紅青白



材料（4人分）

- 白玉粉…120g（40g × 3）
- もち米の粉…120g（40g × 3）
- 水
- 砂糖…225g（75g × 3）
- 水飴…大さじ3（大さじ1 × 3）
- 片栗粉…少々（約大さじ3）
- 食用色素（赤、緑）…適量

作り方（白餅）

1. 白玉粉40gに水60mlを加えて混ぜ、10分ほどおく。
2. 鍋にもち米の粉40gと水40mlを入れて混ぜ、1を加え、加熱しながら混ぜる。
3. 砂糖75gを4回に分けて加えてさらによく混ぜる。着色する場合はこの時に食用色素を加える。
4. 水飴を加え、粘りが出るまで加熱しながらよく混ぜる。
5. バットに片栗粉をしき、4を薄く伸ばし、冷蔵庫で120分休ませる。
6. 食べやすい大きさに切り分ける。（参考 5cm × 6.5cm）

【この料理について】

羽二重餅は1847年福井県発祥とされている。時代が一致しており、また名前が似ていることから「はふたい餅」は「羽二重餅」と考えられる。紅青白の色は、ひな祭りの菱餅の三色である赤緑白を参考にした。羽二重とは、薄手で艶がある上等の絹布をいう。江戸時代では羽二重という言葉は高級品、質の良さを表す言

葉としてよく使われていたとされている。つまり羽二重餅はやわらかくてきめの細かい上品な餅を指すと考えられる。現在も羽二重餅は福井銘菓として販売されており、餡なしで短冊形に切ったもの、抹茶や白あんを入れたもの、よもぎをいれたものなど味、形が様々である。ここでは、よりやわらかく上品な餅となるように餅粉と白玉粉を混ぜたレシピを参考に羽二重餅を作成した。

◆旗本御膳 御餅菓子◆

おぼろまんぢう



材料（8個分：1個の直径6.5cm位）

- 生地
- 薄力粉…80g
- 砂糖…48g
- 水…32g
- ベーキングパウダー…1.6g
- 薄力粉（打ち粉）…32g
- こしあん…320g

作り方

1. 薄力粉とベーキングパウダーを合わせてふるっておく。
2. 砂糖と水を合わせて、ゴムベラで半透明になるまでよく混ぜる。
3. 2に1のふるった薄力粉を加え切るようにざっくりと混ぜる。粉けがなくなったら生地を中央に集めて上から濡れ布巾をかけて30分程度ねかせる。
4. こしあんを8等分（40gずつ）にして、丸める。
5. まな板の上に打ち粉を広げ、生地をもみこんでも

手につかないくらいのかたさに調節する。

6. 5の生地を、8等分し（1個20g）、直径6cmくらいの円にのばし、4のあんを包む。このときまんじゅうの上側の生地が厚くなるようにする。
7. 蒸し器にクッキングシートを敷き、まんじゅうをのせて強火で8分間蒸す。
8. 蒸しあがったまんじゅうは冷ましてから表面の皮を薄くはぐ。

【この料理について】

おぼろまんじゅうとは蒸した饅頭の皮をむいたもので朧月の風情に通じる饅頭である。この形のおぼろまんじゅうは現在も食されている。また、翻刻江戸時代料理本集成には「おぼろまんぢう卵の黄身かけ油あげ砂糖みつかけはちに盛出す 又正月のもち湯煮してくる胡麻さとうかけ」との記載がある。

◆旗本御膳 御餅菓子◆

かんぴょう



材料（4人分）

- 白玉粉…80g
- 水…120ml
- もち米の粉…80g
- 水…80ml
- 砂糖…150g
- 水飴…大さじ2
- 片栗粉…少々（約大さじ2）

作り方

1. 白玉粉に水120mlを加えて混ぜ、10分ほどおく。

2. 鍋にもち米の粉と水80mlを入れてなめらかになるまで混ぜ、1の白玉粉を加えて再び混ぜ合わせる。よく混ぜり合わさったら混ぜながら加熱する。
3. 砂糖を4回に分けて加え、粘り気が出たら水飴を入れてよく混ぜる。
4. 平らな皿に片栗粉を広げ、3を0.5cm程度に薄く伸ばし、冷蔵庫で120分程度休ませる。
5. もちは、「かんぴょう」に見立てて、細長く（幅2cm、長さ18cm）切り、千代結びにする。

【この料理について】

「かんぴょう」という菓子は滋賀県や鳥取県の和菓子店で現在でもみられる。どちらも餅をかんぴょうに見立てた菓子である。かんぴょうを使った菓子はほかにもあるが、御餅菓子であることから、かんぴょうを模した餅を作成することにした。

参考文献

- 1) 栗山善四郎著：江戸料理大全。誠文堂新光社（2017）
- 2) 松下幸子著：図説江戸料理事典。柏書房株式会社（2009）
- 3) 吉井始子編：翻刻 江戸時代料理本集成 第十巻。臨川書店（1981）
- 4) 原田信男編：江戸と料理の食生活－ビジュアル日本生活史。小学館（2004）
- 5) 淮南狂道人編：豆腐百珍：手軽料理
- 6) 中山圭子著：辞典 和菓子の世界 増補改訂版。岩波書店（2018）
- 7) ベターホーム協会著：私が作る和菓子。ベターホーム出版部（1994）
- 8) 江戸時代レシピデータセット「万宝料理秘密箱 卵百珍」より「シンプル!卵山吹蒲鉾」「卵の黄身の蒲鉾」(CODH作成)「日本古典籍データセット」(国文研所属)を翻案 <http://codh.rois.ac.jp/edo-cooking/tamago-hyakuchin/recipe/086.html> (2019.3.14確認)
- 9) 日本料理、会席・懐石案内所 鯛の子を煮るときの詳しい下処理方法【春の旬食材】 <https://oisiryouri.com/tainoko-shitashori-houhou/> (2019.3.5確認)
- 10) 千葉県、ちばのふるさと料理 <https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/recipe/furusato/index.html> (2020.1.9確認)
- 11) 長野県諏訪地域振興局、農業特産品 <https://www.pref.nagano.lg.jp/suwachi/suwachi-nosei/shokonorin/tokusan.html> (2020.1.9確認)
- 12) 虎屋文庫、菓子資料室 <https://www.toraya-group.co.jp/toraya/bunko/> (2020.1.9確認)

栄養価

大名御膳		エネルギー (kcal)	たんぱく質 (g)	脂質 (g)	炭水化物 (g)	食塩相当量 (g)
御煮染	鯛小串焼 1串	181	17.8	7.7	7.5	0.6
	けいらん巻き 2切	145	9.2	7.7	7.8	0.3
	金椎茸 2枚	37	2.7	0.5	10.5	0.7
	篠れんこん 1人分	91	2.6	0.1	19.9	0.8
	二色きせへとうふ 2切	145	8.0	8.3	7.7	1.1
	角くわい 2個	60	2.5	0.0	12.8	0.4
	あわひふくら煮 1個	69	7.9	0.2	6.7	1.1
御餅菓子	しらこ餅 1個	131	4.0	0.4	26.6	0.0
	もくめこん 2切	129	6.3	0.5	24.0	0.0
	近とん 1個	101	0.8	0.2	24.1	0.0
	薄ミスシ 2個	75	0.4	0.1	18.6	0.0
	上梅雪 紅白各1個	88	2.2	0.3	19.3	0.0
	冬こもり 2切	202	5.1	4.9	34.3	0.1
	とう餅 1個	128	2.8	4.6	18.3	0.0

旗本御膳		エネルギー (kcal)	たんぱく質 (g)	脂質 (g)	炭水化物 (g)	食塩相当量 (g)
御吸物	赤味噌 色紙鯛 同花子 紅山柀 1人分	83	10.5	3.7	1.1	1.0
御口取	鯛色付焼 紅せうが 1切	139	13.3	5.7	5.9	1.4
	きみかまぼこ 2切	132	10.6	6.8	6.1	1.6
	かさまつたけ 2個	255	8.4	21.5	6.7	0.9
	ありのみ月煮 2切	106	0.2	0.1	22.3	0.0
御煮染	もくめ鮑 1個	57	6.7	0.1	5.4	1.7
	しの巻きす 1切	73	5.3	3.2	5.8	1.2
	しいたけ 2枚	35	1.4	0.2	8.5	0.7
	かんひょう 2切	34	0.8	0.0	7.4	0.7
	長いも 2切	68	2.0	0.2	15.2	0.7
御餅菓子	はふたい餅 3切	505	3.8	0.6	121.0	0.0
	おぼろまんぢう 1個	137	5.1	0.5	27.5	0.0
	かんひょう 2切	341	2.5	0.4	81.8	0.0

淑徳大学地域連携センター年報

第4号

発行 令和2年12月
編集責任者 矢尾板俊平
発行者 淑徳大学地域連携センター
〒260-8701 千葉市中央区大巖寺町200
電話043-265-7911
印刷 (株)正文社
〒260-0001 千葉市中央区都町1-10-6
電話043-233-2235

ISSN 2434-0278